腎機能低下時に最も注意の必要な薬剤投与量一覧

2020年改訂33版

本一覧は，医薬品添付文書，インタビューフォーム，並びに多数の学術論文から得られたデータに基づき，一般的な情報や平均値パラメーターを掲載していますので，必ずしも普遍的なガイドラインではありません。
あくまでも参考データとして利用していただければ幸いです。

1. 原則として，薬効順に収載していますが，利便性を重視し，保険薬効とは異なる分類に収載した医薬品もあります。たとえば，シンメトレル®錠は抗パーキンソン病薬だけでなく，インフルエンザ治療薬としても収載されています。
2. 常用量（用法・用量）など医薬品添付文書に記載されている基本的事項については，編集時点の情報をもとに簡略化して作成しています。最新の情報や詳細については，医薬品添付文書をご覧ください。
3. 本表の作成にあたっては，記載不備のないように最大限の努力をしていますが，正確性，完全性，適切性については，完全には保証できず，当学会が責任を負うものではありません。
4. 掲載内容の無断転載・配信を禁じます。
5. 透析性の欄には，透析で除去されるか否かについて，臨床で必要なレベルの分類として，○（透析性の高い薬物），△（透析でやや除去される薬物），×（透析で除去されにくい薬物），不明，配合剤に分類しています。配合剤については，それぞれの薬物の頁をご参照ください。
6. 禁忌の欄には，添付文書において腎機能低下患者や透析患者などの腎臓病患者に対して投与禁忌と記載されている薬物に「禁」の記載をしています。
7. 腎障害の欄には，複数の信頼性の高い薬剤性腎障害に関する総説で，薬剤性腎障害の原因薬物となるものには「○」をつけています。アレルギー性の腎障害は除いています。
8. 腎機能低下患者の投与法は，次のことに留意してご参照ください。Jaffe法で測定された血清クレアチニン値に基づくCCr推算値は，結果的にGFRに近似します。このことから本一覧において，特に比較的過去に海外で臨床試験された薬剤では，体表面積未補正eGFR（mL/min）で腎機能を評価することは差し支えないと思われます（スペシャルポピュレーションを除く）。ただし，血清クレアチニン値の測定法（Jeffe法・酵素法）に限らず，腎機能低下時の投与法基準の根拠となる腎機能の評価法は残念ながら統一されていません。このため，詳細については各薬剤の治験時データや該当する論文をご参照いただき，個別に判断をお願いします。一方で，原則的に筋肉量が極端に少ない患者に腎機能推算式を適用する場合は，CCrが過大評価される傾向が強くなるため，蓄尿による実測CCr×0.715によりGFRとして評価するか，シスタチンCによる体表面積未補正eGFRを算出して腎機能を評価することが推奨されます（スペシャルポピュレーションとして取り扱う）。また，固定用量の場合にはGFRまたはCCrの単位は基本としてmL/minを用いますが，投与量がmg/kgやmg/m^{2}のように体格用量の場合にはmL/min/1.73m^{2}を用います。なお，薬剤の減量法の計算に用いられるのは薬剤の全身クリアランスの低下度であり，それは腎機能だけでは決定されないため，腎機能低下により薬物動態がどのように変化するのかを各薬剤において理解することが重要です。
9. 腎機能低下患者の投与法は，医薬品添付文書やインタビューフォームの情報を基本にしています。その他の資料を参照した場合には，参考文献を記載しています。
10. 本表は，小児には適応していません。

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)					HD（血液透析） PD（腹膜透析）
	一般名	番号	商品名				>80 / 70 / 60	50	40	30	20	10>	
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下		末期腎不全	
5-HT$_{1B/1D}$受容体作動型片頭痛治療薬	リザトリプタン安息香酸塩	1	マクサルト錠/RPD錠	×	禁		1回10 mg を片頭痛の頭痛発現時。追加投与は，前回の投与から2時間以上あける。最大1日総投与量20 mg	腎機能正常者と同じ					禁忌 (AUCが上昇する)
帯状疱疹後神経痛治療薬	プレガバリン	2	リリカカプセル	○			①神経障害性疼痛: 初期用量1日150 mgを分2, その後1週間以上かけて1日量として300 mg まで漸増, 最大1日600 mg ②線維筋痛症に伴う疼痛: 初期用量1日150 mg を分2, その後1週間以上かけて1日量として300 mgまで漸増し，300 ～ 450 mg で維持, 最大1日450 mg	①初期用量1日75 mg を分1又は分3, 維持量1日150 mg を分2又は分3, 最大1日300 mg を分2又は分3 ②初期用量1日75 mg を分1又は分3, 維持量1日150 mg を分2又は分3, 最大1日225 mg を分3	①初期用量1日25 ～ 50 mg を分1又は分2, 維持量1日75 mg を分1, 最大1日150 mg を分1又は分2 ②初期用量1日25 ～ 50 mg を分1又は分2, 維持量1日75 mg を分1, 最大1日100 mg もしくは125 mg を分1, 又は1日150 mg を分2	①初期用量1日25 mg を 分1, 維持量25 ～ 50 mg を分1, 最大1日75 mg を分1 ②初期用量1日25 mg を 分1, 維持量25 ～ 50 mg を分1, 最大1日50 ～ 75 mg を分1 添付文書は上記だが，1日25 mg，最大1日50 mg の投与を推奨する	①②初期用量25 mg を分1, 維持量25 ～ 75 mg を分1, HD後の補充用量は投与量により25 ～ 150 mgをHD後に補充。 PDでは初期用量25 mg を分1, 維持量25 ～ 75 mg を分1 添付文書は上記だが，1日25 mg でHD日にはHD後の投与を推奨する。1日50 mg の投与が必要な時はより慎重に行う。
	ミロガバリンベシル酸塩	3	タリージェ錠	△15 %			初期用量1回5 mg を1日2回。その後1回用量として5 mg ずつ1週間以上の間隔をあけて漸増し，1回10 ～ 15 mg を1日2回	初期用量1回2.5 mg を1日2回。有効用量1回5 ～ 7.5 mg を1日2回	初期用量1日1回2.5 mg。有効用量1日1回5 ～ 7.5 mg				
抗リウマチ薬（JAK阻害薬）	バリシチニブ	4	オルミエント錠	△17 %	○		1日1回4 mg。1回2 mg に減量も可。	1日1回2 mg	禁忌 (副作用が強くあらわれることがある)				
抗リウマチ薬（DMARDs）	アクタリット	5	オークル錠/モーバー錠	○		○	1日300mg を分3	1日100 mg を分1				ほぼ100％尿中排泄されるが薬物動態情報がほとんどないため避けたほうがよい	

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)						HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 70 60	50	40	30	20	10>		
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下		末期腎不全		
抗リウマチ薬(DMARDs)	オーラノフィン	6	オーラノフィン錠	×	禁	○	1日6 mg を分2, 朝夕食後, 最大1日6 mg	禁忌 (腎障害が悪化するおそれがある)						
	ブシラミン	7	リマチル錠	○	禁	○	1日300mg を分3, 食後, 最大1日300 mg	禁忌 (ネフローゼ症候群等の重篤な腎障害を起こすおそれがある)						腎機能の廃絶した透析患者の用量は1回100 mg を週3回HD後
	ペニシラミン	8	メタルカプターゼカプセル	×	禁	○	①関節リウマチ: [50, 100 mg]1回100 mg を1日1 ~ 3回, 食前空腹時。1日量100 mg より開始し, 増量するときは4週間以上の間隔をおいて100 mg ずつ漸増し, 最大1日600 mg まで増量可 ②ウイルソン病, 鉛・水銀・銅の中毒: [200 mg]1日1,000 mg を食前空腹時に1 ~ 数回に分割。1日量600 ~ 1,400 mg の範囲で増減	禁忌 (腎障害を起こすおそれがある)						1日50mgでも無顆粒球症の報告があるため避ける
	メトトレキサート	9	リウマトレックスカプセル	○	禁	○	①1週間6 ~ 8 mgで開始。予後不良因子をもつ非高齢者では, 1週間8 mgで開始することが勧められる。増量は1 回に2 mg ずつ行う。高疾患活動性, 予後不良因子をもつ非高齢者では, 2 週ごとに2 mg あるいは4 週ごとに 4 mg ずつ迅速に増量してもよい。副作用危険因子がなく, 忍容性に問題なければ1週間10 ~ 12 mg まで増量。最大1週間16mg まで漸増可。1 週間あたりの投与量を1 回または2 ~ 3回に分割して, 12 時間間隔で 1 ~ 2日間かけて投与。1週間あたりの全量を1 回投与することも可能であるが, 1週間8 mgを超えて投与するときは, 分割投与が望ましい (関節リウマチ治療におけるメトトレキサート診療ガイドライン2016年改訂版) ②尋常性乾癬,関節症性乾癬, 膿疱性乾癬, 乾癬性紅皮症, 若年性特発性関節炎: 添付文書参照	①葉酸を併用し, 1週間2 ~ 4 mgで開始し, 慎重に漸増 (関節リウマチ治療におけるメトトレキサート診療ガイドライン2016年改訂版)	①禁忌 (関節リウマチ治療におけるメトトレキサート診療ガイドライン2016年改訂版)				
高尿酸血症治療薬	アロプリノール	10	ザイロリック錠	○		○	1日200 ~ 300 mg を分2 ~ 3, 食後	1日1回100 mg ただし, この用量では適正な尿酸値にコントロールできない場合が多い	1日1回50 mg ただし, この用量では適正な尿酸値にコントロールできない場合が多い					HD患者では1回100 mg を週3回, 毎HD後。CAPD患者では1日1回50 mg ただし, この用量では適正な尿酸値にコントロールできない場合が多い
痛風治療薬	コルヒチン	11	コルヒチン錠	×	禁	○	①痛風発作の緩解及び予防: 1日3 ~ 4 mg を分6 ~ 8。痛風発作の緩解には1日1.8 mgまで。発病予防には1日0.5 ~ 1 mg。発作予感時には1回0.5 mg ②家族性地中海熱: 1日0.5 mg を分1 ~ 2。1日最大投与量は1.5 mg	連続投与は推奨できない。腎障害がありCYP3A4を強く阻害する薬剤(アタザナビル, クラリスロマイシン, イトラコナゾール, ネルフィナビル, リトナビル, ダルナビル, コビシスタットなど), P-gpを阻害する薬剤(シクロスポリン)併用患者は禁忌						
ベンゾジアゼピン系催眠鎮静剤	ミダゾラム	12	ドルミカム注射液	×			添付文書参照	腎機能正常者と同じ				活性代謝物が蓄積するため50%に減量		
定型抗精神病薬	スルピリド	13	ドグマチール筋注	○			①胃・十二指腸潰瘍: [50 mg]1回50 mg を1日2回, 筋注 ②統合失調症: [50, 100 mg]1回100 ~ 200 mg を筋注。1日600 mg まで増量可	尿中排泄率が90%以上と高いため初回量の減量の必要はないが, 連続投与する場合には投与間隔を腎機能に応じてあける。 末期腎不全では7 ~ 10日間隔で投与する						
		14	ドグマチール錠・カプセル・細粒				①胃・十二指腸潰瘍: [50 mg]1日150 mg を分3 ②統合失調症: [50, 100, 200 mg]1日300 ~ 600 mgを分割投与。1日1,200 mg まで増量可 ③うつ病・うつ状態: 1日150 ~ 300 mg を分割投与。1日600 mg まで増量可	1日25 ~ 300 mg を分3			1日25 mg を分3		1日25 mg を分1。HD患者ではHD日はHD後

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)						HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 / 70 / 60 / 50 / 40 / 30 / 20 / 10>							
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下	末期腎不全			
定型抗精神病薬	チアプリド塩酸塩	15	グラマリール錠・細粒	△			1日75～150 mgを分3。パーキンソニズムに伴うジスキネジアの患者では，1日1回25 mgから開始	1日50～75 mgを分2～3			1日25～50 mgを分1			
非定型抗精神病薬	パリペリドン	16	インヴェガ錠	×	禁		1日1回6 mgより開始し，最大1日12 mg。いずれも朝食後 [CCr 50mL/min以上80mL/min未満] 1日1回3 mgから開始し，最大1日6 mg 健康成人と比較してCL/Fが32%の低下が認められる。	禁忌 (本剤の排泄が遅延し血中濃度が上昇するおそれがある) 健康成人と比較してCL/Fが64～71%の低下が認められる。						
	パリペリドンパルミチン酸エステル	17	ゼプリオン水懸筋注シリンジ				初回150 mg，1週間後に2回目100 mgを三角筋内に投与。その後4週に1回75 mgを三角筋又は臀部筋内に投与。患者の状態により25～150mgの範囲で投与するが，増量は1回50mgまで [CCr 50mL/min以上80mL/min未満] 初回100 mg，1週後に2回目75 mgを三角筋内に投与。その後4週に1回50 mgを三角筋又は臀部筋内に投与。患者の症状により25～100 mgの範囲で投与するが，増量は1回25 mgまで	禁忌 (本剤の排泄が遅延し血中濃度が上昇するおそれがある)						
	リスペリドン	18	リスパダールコンスタ筋注用	×			1回25 mgを2週間隔で臀部筋注，最大1回量50 mg	慎重投与 (活性代謝物の蓄積により減量が必要と考えるが，製剤的に分割投与は推奨されていないため，半減期等に基づいて投与間隔の延長を考慮する)						
		19	リスパダール錠・OD錠・細粒・内用液				①統合失調症: 1回1 mgを1日2回より開始し，維持量1日2～6 mgを分2，最大1日量12 mg ②その他の適応は添付文書参照	活性代謝物が蓄積するため，1日1 mgを分2より開始し，維持量2～6 mgを分2，最大1日6 mg						
抗うつ薬(SNRI)	ベンラファキシン塩酸塩	20	イフェクサーSR カプセル	×	禁		1日37.5 mgを初期用量とし，1週後より1日1回75 mg，食後。増量は1週間以上の間隔をあけて1日用量として75 mgずつ，最大1日225 mg	50～75%に減量(Up to Date)	50%以下に減量(Up to Date) 血中濃度が上昇するおそれがある (総CLが約40%低下する)		禁忌 (使用経験が少なく，本剤のCLが低下し，血中濃度が上昇するおそれがあり，透析ではほとんど除去されない)			
	デュロキセチン塩酸塩	21	サインバルタカプセル	×	禁	○	①うつ病・うつ状態，糖尿病性神経障害に伴う疼痛: 1日1回40 mg，朝食後。1日20 mgより1週間以上の間隔を空けて1日20 mgずつ増量，最大1日60 mg ②線維筋痛症に伴う疼痛，慢性腰痛症に伴う疼痛，変形性関節症に伴う疼痛: 1日1回60 mg，朝食後。1日20 mgより1週間以上の間隔を空けて1日20 mgずつ増量	腎機能正常者と同じ 中等度腎障害では薬物動態に変化が認められない (Clin Pharmacokinet 49: 311 - 321, 2010)	禁忌 (ほとんど尿中排泄されず，半減期も延長しないものの，AUC，C_{max}が約2倍に上昇する) ただし，やむを得ない場合には，吸収量の増加が原因と考えられることから，血中濃度上昇分を考慮し，投与量を減量することにより使用できるかもしれない。本件に関しては，情報が不足していることから，今後の検討が望まれる。				
抗うつ薬 (NaSSA)	ミルタザピン	22	レメロン錠/リフレックス錠	×			1日1回15 mgを初期用量とし，1日15～30 mg，就寝前，最大1日45 mg。増量は1週間以上の間隔をあけて1日15 mgずつ	腎機能正常者と同じ	2/3に減量 AUCは，腎機能正常者に比べて1.5倍に増加する		1/2に減量 AUCは，腎機能正常者に比べて2.2倍に増加する。ただし，透析患者で薬物動態に影響ないという症例報告もある (Pharmacopsychiatry 41: 259 - 260, 2008)			
気分安定薬	炭酸リチウム	23	リーマス錠	○	禁	○	1日400～600 mg 分2～3より開始し，以後3日ないし1週間毎に1日1,200 mgまで漸増。改善後は，維持用量1日200～800 mgを分1～3	50～75%に減量(腎障害ではリチウムが体内貯留しやすいため禁忌)			25～50%に減量(腎障害ではリチウムが体内貯留しやすいため禁忌) 1回600 mgを週3回HD後という報告あり(Am J Psychiatry 167: 1409 - 1410, 2010)			

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)						HD（血液透析） PD（腹膜透析）
	一般名	番号	商品名				>80 / 70 / 60 / 50 / 40 / 30 / 20 / 10>							
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下	末期腎不全			
抗てんかん薬	ガバペンチン	24	ガバペン錠・シロップ	○			初日1日600 mg, 2日目1日1,200 mg, 3日目以降は維持量として1日1,200 ~ 1, 800 mgをいずれも分3, 最大1日量2,400 mg	初日1日400 mg, 維持量として1日600 ~ 800 mgをいずれも分2, 最大1日量1,000 mg		初日1日200 mg, 維持量として1日300 ~ 400 mgをいずれも分1, 最大1日量500 mg	初日1日200 mg を分1, 維持量として1日1 回200 mg, HD日にはHD後。又は維持量として週3回HD後に1回200 ~ 400 mg。CAPD患者ではGFR < 15 mL/min に準じる			
	ピガバトリン	25	サブリル散分包	×			1日50 mg/kg から開始。3日以上の間隔をあけて1日50 mg/kg を超えない範囲で漸増, 最大1日150 mg/kg 又は3 gのいずれか低い方, いずれも分2	低用量からの投与開始, 又は投与間隔の調節を考慮する 腎機能障害患者では低い用量で反応する可能性があり, 腎機能正常者に比し中等度 ~ 重度腎障害患者ではAUCが3.5倍上昇する						
	ミダゾラム	26	ミダフレッサ静注	×			静脈内投与: 0.15 mg/kg を1 mg/min を目安に投与し, 必要に応じ1回0.1 ~ 0.3 mg/kg の範囲で追加。初回と追加投与の総量は0.6 mg/kgを超えないこと 持続静脈内投与: 0.1 mg/kg/hr より開始し, 必要に応じて0.05 ~ 0.1 mg/kg/hr ずつ増量, 最大投与量0.4 mg/kg/hr	腎機能正常者と同じ			50%に減量 活性代謝物が蓄積する			
	レベチラセタム	27	イーケプラ点滴静注	○			経口投与から切り替える場合: 経口投与と同じ1日量及び投与回数 経口投与に先立ち投与する場合: 1回500 mg を1日2回, 最大1回1,500 mg を1日2回, いずれの場合も15分かけて点滴静注 ［CCr 50mL/min以上80mL/min未満］ 1回500 mg を1日2回, 最大1回1,000 mg を1日2回	1回250 mg を1日2回, 最大1回750 mg を1日2回		1回250 mg を1日2回, 最大1回500 mg を1日2回			1回500 mg を1日1回, 最大1回1,000 mg を1日1回, HD患者はHD後に1回250 mg, 最大1回500 mgを補充	
		28	イーケプラ錠・ドライシロップ				1回500 mg を1日2回, 最大1回1,500 mg を1日2回 ［CCr 50mL/min以上80mL/min未満］ 1回500 mg を1日2回, 最大1回1,000 mg を1日2回							
抗パーキンソン病薬	アマンタジン塩酸塩	29	シンメトレル錠・細粒	×	禁		①パーキンソン症候群: 初期量1日100 mg を分1 ~ 2, 1週間後に維持量1日200 mg を分2, 最大1日量300 mg を分3 ②脳梗塞後遺症: 1日100 ~ 150 mg を分2 ~ 3 ③A型インフルエンザウイルス感染症: インフルエンザの項を参照	1回100 mg を2 ~ 3日毎			1回50 ~ 100 mg を7日毎		禁忌	
	プラミペキソール塩酸塩水和物	30	ビ・シフロール錠	×			①パーキンソン病: 1日0.25 mg より開始し, 2週目に1日0.5 mg とし, 1週間毎に1日量として0.5 mg ずつ増量。標準維持量1日1.5 ~ 4.5 mg。1日量が1.5 mg 未満は分2, 朝夕食後, 1.5 mg 以上は分3, 毎食後。最大1日量4.5 mg	初回1日0.25 mg を分2。最大1日量2.25 mg を分2			初回1日1回0.125 mg, 最大1日1回1.5 mg		十分な使用経験がないので, 状態を観察しながら慎重投与	
		31	ミラペックスLA錠		禁		1日1回0.375 mg, 食後から開始し, 2週目に1日0.75 mg とし, 1週間毎に1日0.75 mg ずつ増量, 標準維持量1日1.5 ~ 4.5 mg, 最大1日4.5 mg	治療開始1週間は0.375 mgを隔日投与し, その後は1日1回投与。必要に応じて1週間毎に0.375 mg ずつ漸増, 最大1日1回2.25 mg		禁忌 (徐放性製剤のため, 副作用が増強, 遅延しやすい) 状態を観察しながら速効錠であるビ・シフロール錠を慎重投与				
ミオクローヌス治療薬	ピラセタム	32	ミオカーム内服液	○	禁		1回12 mL を1日3回, 3 ~ 4日間。その後病態に合わせて, 1回3 mLずつ1日3回の割合で3 ~ 4日毎に増量。最高量は1回21 mL を1日3回	通常量の1/2		通常量の1/4			禁忌	
経口脊髄小脳変性症治療薬	タルチレリン水和物	33	セレジスト錠・OD錠	×			1日10 mg を分2, 朝夕食後	慎重投与 重度の腎機能障害患者1名で血漿中濃度が約4.2倍上昇したことがある						

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)						HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 正常または軽度低下	70 軽度～中等度低	60	50 中等度～高度低	40	30 高度低下	20	10> 末期腎不全	
自律神経用薬	ジスチグミン臭化物	34	ウブレチド錠	不明			①手術後及び神経因性膀胱などの低緊張性膀胱による排尿困難: 1日5mg ②重症筋無力症: 1日5～20 mgを分1～4	①1日1回2.5～5 mg ②1日1回2.5～10 mg						①1日1回2.5 mg ②1日1回2.5～5 mg	
	ネオスチグミンメチル硫酸塩	35	ワゴスチグミン注	○			①重症筋無力症，クラーレ剤による遷延性呼吸抑制，手術後及び分娩後の腸管麻痺・排尿困難: 1回0.25～1.0 mgを1日1～3回皮下注又は筋注 ②非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗: 1回0.5～2.0 mgを緩徐に静注	50%に減量 (Renal Pharmacotherapy, 2013)			25%に減量 (Renal Pharmacotherapy, 2013)				
	ネオスチグミンメチル硫酸塩・アトロピン硫酸塩水和物配合	36	アトワゴリバース静注シリンジ	配合剤			1回1.5～6 mL を緩徐に静注	本剤は投与せず，ネオスチグミン製剤，アトロピン製剤により，個別に用法・用量の調節を行う							
	ピリドスチグミン臭化物	37	メスチノン錠	不明			1日180 mgを分3			35%に減量 (Renal Pharmacotherapy, 2013)				20%に減量 (Renal Pharmacotherapy, 2013)	
アルツハイマー型認知症治療薬	メマンチン塩酸塩	38	メマリー錠・OD錠・ドライシロップ	×			1日1回5 mgから開始し，1週間に5 mgずつ増量し，維持量として1日1回20 mg	維持量として1日1回10～20 mg				維持量として1日1回10 mgまで			
強心配糖体	ジゴキシン	39	ジゴシン注	×			急速飽和療法: 1回0.25～0.5 mgを2～4時間毎に静注。比較的急速飽和療法・緩徐飽和療法も可 維持療法: 1日0.25 mgを静注	維持療法: 0.09 mgを24時間毎 経口用量の70%程度に減量し，心拍数や血中濃度を測定し，適宜調整する						維持用法: 0.09 mgを48時間毎 経口用量の70%程度に減量し，心拍数や血中濃度を測定し，適宜調整する	維持療法: 0.09 mgを週3～4回 経口用量の70%程度に減量し，心拍数や血中濃度を測定し，適宜調整する
		40	ジゴキシンKY錠・ハーフジゴキシンKY錠/ジゴシン錠・散・エリキシル				急速飽和療法: 初回0.5～1.0 mg，以後0.5 mgを6～8時間毎。比較的急速飽和療法・緩徐飽和療法も可。 維持療法: 1日0.25～0.5 mg	維持療法: 0.125 mgを24時間毎						維持療法: 0.125 mgを48時間毎	維持療法: 0.125 mgを週3～4回
	メチルジゴキシン	41	ラニラピッド錠	×			急速飽和療法: 初回0.2～0.3 mg，以後1回0.2 mgを1日3回。比較的急速飽和療法・緩徐飽和療法も可 維持療法: 1日0.1～0.2 mg	維持療法: 0.05～0.1 mgを24時間毎						維持療法: 0.025～0.05mgを24～48時間毎	維持療法: 0.05 mgを週3～4回
	デスラノシド	42	ジギラノゲン注	×			急速飽和療法(飽和量: 0.8～1.6 mg): 初回0.4～0.6 mg，以後0.2～0.4 mgを2～4時間毎に静注又は筋注 比較的急速飽和療法: 1日0.4～0.6 mgを静注又は筋注。十分効果のあらわれるまで2～4日間続ける 維持療法: 1日0.2～0.3mgを静注又は筋注	減量の必要はあるが，薬物動態が解明されていないため不明							
強心薬	オルプリノン塩酸塩水和物	43	コアテック注・注SB	不明			初回10 μg/kgを5分間をかけて緩徐に静注し，引き続き0.1～0.3 μg/kg/minで点滴静注。0.4 μg/kg/minまで増量可	1/3～1/2に減量						1/3に減量	
	ミルリノン	44	ミルリーラ注射液・K注射液	○			初回50 μg/kgを10分かけて静注し，引き続き0.5 μg/kg/minで点滴静注。0.25～0.75 μg/kg/minの範囲で増減。点滴静注から開始しても可。48時間を超えて投与するときは慎重投与。	腎機能に応じて10～50%に減量						0.25 μg/kg/minから開始	
β遮断薬	アテノロール	45	テノーミン錠	○		○	1日1回50 mg. 最大1日1回100mg	1日1回25～50 mg			1日1回25 mg			1日1回12.5 mg	1回25 mgを週3回HD後。PDでは25 mgを週3回
	ナドロール	46	ナディック錠	○			1日1回30～60 mg			常用量を24～36時間毎		常用量を24～48時間毎		常用量を48～72時間毎	

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)							HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 / 70 / 60 / 50 / 40 / 30 / 20 / 10>								
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下	末期腎不全				
ループ利尿薬	フロセミド	47	ラシックス注	×	禁	○	①高血圧症，悪性高血圧，心性浮腫，腎性浮腫，肝性浮腫，脳浮腫，尿路結石排出促進：[20 mg]1日1回20 mg を静注又は筋注 ②急性又は慢性腎不全による乏尿：[100 mg]1回20 ~ 40 mg を静注し，利尿反応のないことを確認後，1回100 mg を静注。投与後2時間以内に約40 mL/hr以上の尿量が得られない場合には用量を漸増。最大1回500 mg，最大1日1,000 mg。投与速度は4 mg/min 以下	腎機能不全の場合には大量に用いることもあるが，血清濃度が50 μg/mL以上で聴覚障害が起こる可能性があるため，1回7.5 mg/kg を超えないようにする					1回7.5 mg/kg を超えないようにするが，無尿の患者には禁忌
炭酸脱水酵素抑制薬	アセタゾラミド	48	ダイアモックス注射用	×	禁	○	①緑内障：1日250 mg ~ 1 g を分割投与 ②てんかん：1日250 ~ 750 mg を分割投与 ③肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善：1日1回250 ~ 500 mg ④メニエル病及びメニエル症候群：1日1回250 ~ 750 mg いずれも静注又は筋注	1回125 又は250 mg を1日2回		1回125 mg を1日1 ~ 2回	1日1回125 mg			1回125 mg を週3 回，ただし無尿，急性腎不全の患者には禁忌
		49	ダイアモックス錠・末				①緑内障：1日250 ~ 1,000 mg を分割投与 ②てんかん：1日250 ~ 750 mg を分割投与 ③肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善，心性・肝性浮腫：1日1回250 ~ 500 mg ④月経前緊張症：1日1回125 ~ 375 mg を月経前5 ~ 10日間又は症状が発現した日から投与 ⑤メニエル病及びメニエル症候群：1日1回250 ~ 750 mg ⑥睡眠時無呼吸症候群：[錠のみ]1日250 ~ 500 mgを分割投与						
肺高血圧症治療薬	タダラフィル	50	アドシルカ錠	×	禁		1日1回40 mg		1日1回20 mg	禁忌 (血中濃度が上昇すること，使用経験が限られていること及び透析によるCLの促進は期待されない)					
抗不整脈薬Ⅰa群	ジソピラミドリン酸塩	51	リスモダンP静注	個人差あり			1回50 ~ 100 mg (1 ~ 2 mg/kg) を5分以上かけ緩徐に静注	適宜減量			1日100 mg まで 1回量は常用量と同じ				
		52	リスモダンR錠		禁		1回150 mg を1日2回	徐放性製剤のため用量調節できないので使用を推奨しない			禁忌 (腎排泄で徐放性製剤のため適さない)				
	ジソピラミド	53	リスモダンカプセル				1回100 mg を1日3回		1日150 ~ 200 mg を分1 ~ 2		1日1回100 mg			1日1回100 mg	
	シベンゾリンコハク酸塩	54	シベノール静注	×	禁		1回1.4 mg/kg を2 ~ 5分かけて静注	適宜減量						禁忌 (低血糖などの重篤な副作用を起こしやすい)	
		55	シベノール錠				1日300 mg を分3，1日450 mgまで増量可	1回50 mg を1日1 ~ 2回		1日1回50 mg	1日1回25 mg				
	プロカインアミド塩酸塩	56	アミサリン注	○			静注：200 ~ 1,000 mg を50 ~ 100 mg/minの速度で投与。最大注入総量1,000 mg 筋注：1回500 mg を4 ~ 6時間毎	1 回200 ~ 400 mg を12時間毎			1 回200 ~ 400 mg を12 ~ 24時間毎				
		57	アミサリン錠				1 回250 ~ 500 mg を3 ~ 6時間毎	1 回250 ~ 500mg を12時間毎			1 回250 ~ 500 mg を12 ~ 24時間毎				

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)						HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 / 70 / 60 / 50 / 40 / 30 / 20 / 10>							
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下	末期腎不全			
抗不整脈薬Ⅰc群	ピルシカイニド塩酸塩水和物	58	サンリズム注射液	△ 20 %			①期外収縮: 1回0.75 mg/kg ②頻拍: 1回1.0 mg/kg いずれも10分間で徐々に静注	適宜減量						
		59	サンリズムカプセル				1日150 mg を分3, 1日225 mg まで増量可	1日1回50 mg		1日1回25 mg	1回25 mg を48時間毎		1回25 mg を48時間毎より開始	
抗不整脈薬Ⅲ群	ソタロール塩酸塩	60	ソタコール錠	○	禁		1日80mg を分2で開始し, 1日320 mg まで漸増	1/3 ~ 2/3に減量				禁忌 (腎臓から排泄されるため, 血中濃度が高くなることにより, 重篤な副作用が発現するおそれがある)		
フィブラート系薬剤	フェノフィブラート	61	トライコア錠/リピディル錠	×	禁	○	1日1回106.6 ~ 160 mg を食後, 最大1日160 mg	腎機能正常者と同じだが, SCr 2.5 mg/dL 以上又はCCr 40 mL/min未満は禁忌 急激な腎機能の悪化を伴う横紋筋融解症があらわれることがあるので, 投与にあたっては患者の腎機能を検査し, 血清Cr値が2.5 mg/dL 以上の場合には投与を中止し, 血清Cr値が1.5 mg/dL 以上2.5 mg/dL 未満の場合は53.3 mg から投与を開始するか, 投与間隔を延長して使用する HMG-CoA還元酵素阻害薬との併用は慎重投与						
	ベザフィブラート	62	ベザトールSR錠	×	禁	○	1日400 mg を分2, 朝夕食後	1日1回200 mg だが, SCr 2.0 mg/dL 以上は禁忌 HMG-CoA還元酵素阻害薬との併用は慎重投与						
第2世代抗ヒスタミン薬	フェキソフェナジン塩酸塩・塩酸プソイドエフェドリン配合	63	ディレグラ配合錠	×			1回2錠を1日2回, 朝夕の空腹時	プソイドエフェドリンの尿中未変化体排泄率のデータに幅があるため, 至適投与量が定めにくいが1回1錠を1日1 ~ 2回						
	レボセチリジン	64	ザイザル錠・OD錠・シロップ	×	禁		1日1回5 mg, 就寝前, 最大1日10 mg	1日1回2.5 mg	1回2.5 mg を2日に1回	1回2.5 mg を週2回 (3 ~ 4日毎)	禁忌 (腎機能正常者に比しAUCが1.8 ~ 5.7倍増加する)			
H_2遮断薬	シメチジン	65	タガメット注	○		○	①上部消化管出血, 侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制: 1回200 mg を1日4回, 6時間間隔で緩徐に静注又は点滴静注 ②麻酔前投薬: 1回200 mg を麻酔導入1時間前に筋注		1回200 mg を1日3回 (8時間毎)	1回200 mg を1日2回 (12時間毎)		1日1回200 mg, HD患者はHD日にはHD後に投与		
		66	タガメット錠・細粒				①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍: 1日800 mg を分2, 朝食後・就寝前。1日量を分4 (毎食後・就寝前) もしくは1回 (就寝前) も可 ②吻合部潰瘍, ゾリンジャーエリソン症候群, 逆流性食道炎, 上部消化管出血: 1日800 mg を分2, 朝食後・就寝前。1日量を分4 (毎食後・就寝前) も可 ③急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期: 1日400 mg を分2, 朝食後・就寝前。1日量を1回 (就寝前) も可		1回200 mg を1日3回 (8時間毎)	1回200 mg を1日2回 (12時間毎)		1日1回200 mg, HD患者はHD日にはHD後に投与		
	ニザチジン	67	アシノン錠	○			①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍: [75, 150 mg]1回150 mg を1日2回, 朝食後・就寝前。1日1回300 mg, 就寝前も可 ②逆流性食道炎: [75, 150 mg]1回150 mg を1日2回, 朝食後・就寝前 ③急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期: [75 mg]1回75 mg を1日2回, 朝食後・就寝前	1日1回150 mg			1日1回75 mg		1日1回75 mg 又は1回150 mg を週3回, HD患者はHD日にはHD後に投与	

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量										HD（血液透析） PD（腹膜透析）
							GFRまたはCCr(mL/min)										
							>80	70		60	50		40	30	20	10>	
	一般名	番号	商品名				正常または軽度低下			軽度～中等度低			中等度～高度低		高度低下	末期腎不全	
H_2遮断薬	ファモチジン	68	ガスター注射液	○		○	①上部消化管出血，Zollinger-Ellison症候群，侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制: 1回20 mg を1日2回，12時間毎に緩徐に静注，点滴静注又は筋注 ②麻酔前投薬:1回20 mg を麻酔導入1時間前に筋注			1日20 mg を分1～2					1回10 mg を2日に1回又は1日1回5 mg	1日1回5 mg	1日1回5 mg, HD患者で1回10 mg を週3回HD後も可
		69	ガスター錠・D錠・散				①胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，上部消化管出血，逆流性食道炎，Zollinger-Ellison症候群: 1回20 mg を1日2回，朝・夕食後又は就寝前。1日1回40 mg，就寝前も可 ②急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期: 1回10 mg を1日2回，朝・夕食後又は就寝前。1日1回20 mg，就寝前も可			1日20 mg を分1～2					1回20 mg を2～3日に1回又は1日1回10 mg	1日1回10 mg	1日1回10 mg, HD患者では1回20 mg を週3回HD後も可
	ラニチジン塩酸塩	70	ザンタック注射液	×		○	①上部消化管出血: 1回50 mg を1日3 ～ 4回，静注又は筋注 ②侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制: 1回100 mg を1日2回，点滴静注 ③麻酔前投薬: 1回50 mg を麻酔導入1時間前に静注又は筋注。手術が長時間に及ぶ場合は6時間間隔で50 mg を追加	1回50 mg を1日2回							1日1回50 mg		1日1回50 mg 又は1回100 mg を週3回。HD患者はHD日にはHD後に投与
		71	ザンタック錠				①胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，Zollinger-Ellison症候群，逆流性食道炎，上部消化管出血: 1回150 mg を1日2回，朝食後・就寝前。1日1回300 mg，就寝前も可 ②急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期: 1回75 mg を1日2回，朝食後・就寝前。1日1回150 mg，就寝前も可 ③麻酔前投薬: 1回150 mgを2回，手術前日就寝前及び当日麻酔導入2時間前	1回75 mg を1日2回							1日1回75 mg		1日1回75 mg 又は1回150 mg を週3回。HD患者はHDにはHD後に投与
	ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	72	アルタット静注用	×			①上部消化管出血: 1回75 mg を1日2回，緩徐に静注又は点滴静注。 ②麻酔前投薬: 1回75 mg を麻酔導入1時間前に静注			1回37.5 mg を1日2回					1日1回25 mg		1日1回25 mg 又は75 mg を週3回，HD患者はHD日にはHD後に投与
		73	アルタットカプセル・細粒				①胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎: 1回75 mg を1日2回，朝食後・就寝前又は夕食後。1日1回150 mg，就寝前も可。 ②Zollinger-Ellison症候群: 1回75 mg を1日2回，朝食後・就寝前又は夕食後。 ③麻酔前投薬:1回75 mg を2回，手術前日就寝前及び当日麻酔導入2時間前。 ④急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期: 1回75 mg を1日1回，就寝前又は夕食後。			1日1回75 mg						1日1回37.5 mg	1日1回37.5 mg 又は75 mg を週3回。HD患者はHD日にはHD後に投与
消化管運動調整薬	メトクロプラミド	74	プリンペラン注射液	×			1回10 mg を1日1～2回，筋注又は静注										50%に減量 (Up to Date) 総CLが健常者の30%に低下するという報告がある (Eur J Clin Pharmacol 19: 437 - 441, 1981)
		75	プリンペラン錠・細粒・シロップ				1日10 ～ 30 mg を分2～3，食前										1日5～15 mg を分1～2 (Up to Date) 総CLが健常者の30%に低下するという報告がある (Eur J Clin Pharmacol 19: 437 - 441, 1981)

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)							HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 / 70 / 60 / 50 / 40 / 30 / 20 / 10>								
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下	末期腎不全				
経口腸管洗浄薬	リン酸二水素ナトリウム一水和物・無水リン酸水素二ナトリウム配合	76	ビジクリア配合錠	不明	禁	○	大腸内視鏡検査開始の4～6時間前から本剤を1回あたり5錠ずつ，約200 mL の水とともに15分毎に計10回 (計50錠) 投与							禁忌 (透析患者を含む重篤な腎機能障害のある患者，急性リン酸腎症のある患者では吸収されたリンの排泄が遅延し，血中リン濃度の上昇が持続するおそれがあり，腎機能障害，急性リン酸腎症 (腎石灰沈着症) を悪化させるおそれがある)	
スルホニル尿素 (SU) 薬	アセトヘキサミド	77	ジメリン錠	×	禁		1日250 mg，投与方法は分1の場合は朝食前又は後，分2の場合は朝夕食前又は後，最大1日1,000 mg	慎重投与						禁忌 (SU 剤は腎機能が低下すると一定の臨床効果が得られないうえ，低血糖などの副作用を起こしやすいため，重篤な腎機能障害患者はインスリン治療に切り替える)	
	グリベンクラミド	78	オイグルコン錠/ダオニール錠	×	禁		1日2.5 mg，投与方法は分1の場合は朝食前又は後，分2の場合は朝夕食前又は後，最大1日10 mg								
	グリメピリド	79	アマリール錠・OD錠	×	禁		1日0.5～1 mg を分1～2，朝又は朝夕食又は食後より 開始し，維持量1日1～4 mg，最大1日6 mg								
	クロルプロパミド	80	アベマイド錠	×	禁		1日1回100～125 mg を朝食前又は食後，最大1日500 mg								
速効型インスリン分泌促進薬	ナテグリニド	81	スターシス錠/ファスティック錠	×	禁		1回90 mg を1日3回，毎食直前，最大1回120 mg	慎重投与 (活性代謝物が蓄積しやすい)						禁忌 (透析を必要とするような重篤な腎機能障害のある患者は，活性代謝物が蓄積することによって低血糖が起こりやすい)	
ビグアナイド系	ブホルミン塩酸塩	82	ジベトス錠/ジベトンS腸溶錠	○	禁	○	1日100 mg を分2～3，食後，最大1日150 mg	禁忌 (低血糖のみでなく乳酸アシドーシスの危険がある)							
	メトホルミン塩酸塩	83	グリコラン錠	○	禁	○	1日500 mg を分2 ～ 3，食後，最大1日750 mg。	少量より開始し，最大1日750 mg を分2～3 eGFR 30 mL/min/1.73m^{2}以上45 mL/min/1.73m^{2}未満の患者では，治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与する。						禁忌 (腎臓における排泄が減少し，高い血中濃度が持続するおそれがある)	
		84	メトグルコ錠				1日500 mg を分2～3，食直前又は食後より開始し，維持量は1日750～1,500 mg，最大1日2,250 mg	少量より開始し，最大1日1,500 mg を分2～3	治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与する。少量より開始し，最大1日750 mg を分2～3						
DPP-4阻害薬	アログリプチン	85	ネシーナ錠	×			1日1回25 mg		1日1回12.5 mg 健康成人に比しAUCが2.1倍となる					1日1回 6.25 mg 健康成人に比しAUCが3.2～3.8倍となる	
	オマリグリプチン	86	マリゼブ錠	×			1回25 mg を1週間に1回	腎機能正常者と同じ 健康成人に比しAUCが1.3倍となる						1回12.5 mg を1週間に1回 健康成人に比しAUCが2.0倍となる	
	シタグリプチンリン酸塩水和物	87	ジャヌビア錠/グラクティブ錠	×			1日1回50 mg。最大1日1回100 mg		1日1回25 mg，最大1日1回50 mg 健康成人と比較して，AUCは約2.3倍となる					1日1回12.5 mg，最大1日1回25 mg 健康成人と比較して，AUCは約3.8倍となる	
	トレラグリプチンコハク酸塩	88	ザファテック錠	×	禁		1回100 mg を1週間に1回		1回50 mg を1週間に1回 健康成人と比較して，AUCは約2.1倍となる					25 mg を1週間に1回 健康成人と比較して，AUCは約3.7倍となる	

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量				GFRまたはCCr(mL/min)						HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80	70	60	50	40	30	20	10>			
							正常または軽度低下			軽度～中等度低	中等度～高度低		高度低下	末期腎不全			
GLP-1アナログ製剤	エキセナチド	89	バイエッタ皮下注ペン	×	禁	○	1回5 μg を1日2回朝夕食前に皮下注, 投与開始後から1ヵ月以上の経過観察後, 1回10 μg を1日2回に増量可				1日1回5～10 μg CLが36%低下し, $t_{1/2}$が約2.2倍に延長する			禁忌 (透析患者を含む重度腎機能障害のある患者では本剤の消化器系副作用による忍容性が認められていない。透析患者では, CLが84%低下し, $t_{1/2}$が約4.1倍に延長する)			
		90	ビデュリオン皮下注ペン				1回2 mg を週1回, 皮下注				使用しないことが望ましい 使用経験も少なく不明だが, 平均血中濃度の中央値が約1.7倍となるため減量すべきだが,デバイスが減量に不適である			禁忌 (透析患者を含む重度腎機能障害のある患者では本剤の消化器系副作用による忍容性が認められていない)			
チアゾリジン系薬・ビグアナイド系薬配合剤	ピオグリタゾン塩酸塩・メトホルミン塩酸塩配合	91	メタクト配合錠LD・HD	配合剤	禁		1日1回1錠, 朝食後				本剤は投与せず, ピオグリタゾン製剤及びメトホルミン製剤により, 個別に用法・用量の調節を行う			禁忌 (腎臓における排泄が減少し, メトホルミンの高い血中濃度が持続するおそれがある)			
チアゾリジン系薬・DPP4阻害薬配合剤	ピオグリタゾン塩酸塩・アログリプチン安息香酸塩配合	92	リオベル配合錠LD・HD	配合剤	禁		1日1回1錠, 朝食前又は朝食後				本剤は投与せず, ピオグリタゾン製剤及びアログリプチン製剤により, 個別に用法・用量の調節を行う			禁忌 (低血糖を起こすおそれがある)			
DPP4阻害薬・ビグアナイド系薬配合剤	アナグリプチン・メトホルミン塩酸塩配合	93	メトアナ配合錠LD・HD	配合剤	禁		1回1錠を1日2回朝夕				本剤は投与せず, アナグリプチン製剤及びメトホルミン製剤により, 個別に用法・用量の調節を行う			禁忌 (腎臓における排泄が減少し, メトホルミンの高い血中濃度が持続するおそれがある)			
	アログリプチン安息香酸塩・メトホルミン塩酸塩配合	94	イニシンク配合錠	配合剤	禁		1日1回1錠を食直前又は食後				本剤は投与せず, アログリプチン製剤及びメトホルミン製剤により, 個別に用法・用量の調節を行う			禁忌 (腎臓における排泄が減少し, メトホルミンの高い血中濃度が持続するおそれがある)			
	ビルダグリプチン・メトホルミン塩酸塩配合	95	エクメット配合錠LD・HD	配合剤	禁		1回1錠を1日2回朝夕				本剤は投与せず, ビルダグリプチン製剤及びメトホルミン製剤により, 個別に用法・用量の調節を行う			禁忌 (腎臓における排泄が減少し, メトホルミンの高い血中濃度が持続するおそれがある)			
ビスホスホネート製剤	イバンドロン酸ナトリウム水和物	96	ボンビバ静注シリンジ	△ 36 %			1回1 mg を1ヶ月に1回, 静注			慎重投与 (AUCが健常成人の1.55倍上昇する)				慎重投与 (AUCが健康成人の2.97倍になる) 適応外使用としてがん領域で, 1回2 mg を3～4週間ごとに投与することがある (Oncologist 10: 19 - 24, 2005)			
		97	ボンビバ錠				1回100 mg を1ヶ月に1回, 起床時			腎機能正常者と同じ (Up to Date)				投与を推奨しない (Up to Date)			
	エチドロン酸二ナトリウム	98	ダイドロネル錠	×	禁		①骨粗鬆症: 1日1回200 mg を2週間。再投与まで10～12週休薬, 最大1日400 mg ②脊髄損傷後・股関節形成術後の異所性骨化の抑制: 1日1回800 ～ 1,000 mg, 最大投与期間3ヵ月 ③骨ページェット病: 1日1回200 mg, 最大1日1,000 mg いずれも食間に投与し, 服薬前後2時間は食物の摂取をさける			1日1回100～750 mg				禁忌 (排泄が阻害されるおそれがある)		
	ゾレドロン酸水和物	99	ゾメタ点滴静注	×		○	①悪性腫瘍による高カルシウム血症: 1回4 mg を15分以上かけて点滴静注。再投与の場合は少なくとも1週間の投与間隔をおく ②多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨病変: 1回4 mg を15分以上かけて3～4週間間隔で点滴静注	①減量の必要なし ②1回3.5 mg いずれも, 急性尿細管壊死を避けるため, 15分以上かけて点滴静注	①減量の必要なし ②1回3.3 mg いずれも, 急性尿細管壊死を避けるため, 15分以上かけて点滴静注	①減量の必要なし ②1回3.0 mg いずれも, 急性尿細管壊死を避けるため, 15分以上かけて点滴静注		①減量の必要なし ②1回3.0 mg 未満 いずれも, 急性尿細管壊死を避けるため, 15分以上かけて点滴静注		十分な使用経験がないので腎機能などをモニターしながら1回3 mg 未満を慎重投与。尿量のある症例には急性尿細管壊死を避けるため, 15分以上かけて静注投与すること	
		100	リクラスト点滴静注液	×	禁	○	1回5 mg を1年に1回, 15分以上かけて点滴静注	腎機能正常者と同じ 慎重投与 (排泄が遅延するおそれがある)					禁忌 (急性腎不全を起こすことがある)				

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)						HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 / 70 / 60	50	40	30	20	10>		
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下		末期腎不全		
ビスホスホネート製剤	リセドロン酸ナトリウム水和物	101	アクトネル錠/ ベネット錠	×	禁		①骨粗鬆症: [2.5 mg]1日1回2.5 mg。[17.5 mg]1週間に1回17.5 mg。[75 mg]1ヵ月に1回75 mg ②骨ページェット病: [17.5 mg]1日1回17.5 mg を8週間連日	腎機能正常者と同じ 慎重投与 (排泄が遅延するおそれがある)		禁忌 (排泄が遅延するおそれがある)			
破骨細胞分化因子 (RANKL) 完全ヒト型モノクローナル抗体	デノスマブ	102	ランマーク皮下注	×			①多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨病変: 1回120 mg を4週間に1回, 皮下注 ②骨巨細胞腫: 1回120 mg を第1, 8, 15, 29日, その後は4週間に1回, 皮下注	腎機能正常者と同じ		慎重投与 (重度の腎機能障害患者では低カルシウム血症を起こすおそれが高い)			
		103	プラリア皮下注シリンジ	×			①骨粗鬆症: 6ヵ月に1回60 mg, 皮下注 ②関節リウマチに伴う骨びらんの進行抑制: 6ヵ月に1回60 mg, 皮下注, 症状により3ヵ月に1回の投与も可						
ヘパリン製剤	エノキサパリンナトリウム	104	クレキサン皮下注キット	×	禁		1回2,000 IUを, 原則として12時間毎に1日2回, 連日皮下注	1日1回2,000 IU 抗第Xa因子活性のAUCは21%上昇する		禁忌 (重度の腎障害では血中濃度が上昇し, 出血の危険性が増大するおそれがある)			
抗トロンビン薬	ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩	105	プラザキサカプセル	○	禁	○	1回150 mg を1日2回。ただし, 経口P-糖蛋白阻害薬(ベラパミル, クラリスロマイシン, エリスロマイシン, イトラコナゾール, シクロスポリン, キニジン, リトナビル, ネルフィナビル, プロパフェノン)併用患者, 70歳以上の患者, 消化管出血の既往のある患者では1回110 mg の1日2回投与を考慮	1回110 mg を1日2回, ただし経口P-糖蛋白阻害薬併用患者には投与を避ける ただし, Giusti-Hayton法による計算では1日220 mg の投与量自体が過量投与である可能性あり		禁忌 (腎排泄型薬物であり出血の危険性が増大する)			
Xa阻害薬	アピキサバン	106	エリキュース錠	×	禁		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制: 1回5mg を1日2回。80歳以上, 体重60kg以下, SCr 1.5mg/dL以上の3項目のうち2つ以上に該当する患者は, 1回2.5 mg を1日2回 ②静脈血栓塞栓症の治療及び再発抑制: 1回10mg を1日2回, 7日間投与後, 1回5mg を1日2回	①1回2.5 mg を1日2回への減量を考慮する ②腎機能正常者と同じだが, 適応について慎重に判断し, 減量も考慮する 腎機能正常者に比しAUCが1.3倍上昇する		①1回2.5 mg を1日2回 ②禁忌 (使用経験が少ない) 腎機能正常者に比しAUCが1.4倍上昇する		①②禁忌 (使用経験がない)	
	エドキサバントシル酸塩水和物	107	リクシアナ錠・OD錠	×	禁		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症, 静脈血栓塞栓症の発症抑制: 体重に応じて次の用量を1日1回。60 kg以下30 mg, 60 kg超60 mg ②下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症発症抑制: 体重に関係なく1日1回30 mg	①1日1回30 mg ②1日1回15 mg 腎機能正常者に比し, AUCが1.8倍上昇し, $t_{1/2}$が1.1倍延長する		①1日1回30 mg ②禁忌 腎機能正常者に比し, AUCが1.9倍上昇, $t_{1/2}$が2.0倍延長する		①②禁忌 (使用経験がなく, ベネフィットを上回る出血のリスクが生じるおそれがある)	
	ダナパロイドナトリウム	108	オルガラン静注	×	禁		1回1,250抗第Xa因子活性単位を12時間毎に静注	慎重投与 (SCr 2 mg/dL 以上の場合は減量もしくは投与間隔を延ばす, 又は投与の中止を考慮する)					禁忌 (HDが必要な患者では排泄遅延により, 出血を起こすおそれがある。また, 投与中にHDが必要な状態に至った場合には速やかに投与を中止する)
	フォンダパリヌクスナトリウム	109	アリクストラ皮下注	×	禁		①急性肺血栓塞栓症及び急性深部静脈血栓症の治療: [5, 7.5 mg]以下の用量を1日1回皮下注。体重50 kg未満5 mg, 体重50 ～100 kg7.5 mg, 体重100 kg超10 mg ②静脈血栓塞栓症の発症抑制: [1.5, 2.5 mg]1日1回2.5 mg, 皮下注	①体重100 kg超では, 1日7.5 mgへの減量を考慮 ②1日1回2.5 mgで出血の危険が高い場合, 1日1回1.5 mg を皮下注		①禁忌 (腎排泄性であり血中濃度が上昇し出血のリスクが増す) ②1日1回1.5 mg を皮下注		①, ②禁忌 (腎排泄性であり血中濃度が上昇し出血のリスクが増す)	

分類	薬剤名 一般名	番号	商品名	透析性	禁忌	腎障害	常用量 >80 70 60 正常または軽度低下	GFRまたはCCr(mL/min) 50 軽度～中等度低下	40 30 中等度～高度低下	20 高度低下	10> 末期腎不全	HD（血液透析） PD（腹膜透析）
Xa阻害薬	リバーロキサバン	110	イグザレルト錠・細粒分包	×	禁		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制: 1日1回15 mg ② 静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療及び再発抑制: 発症後の初期3週間は1回15 mgを1日2回，その後1日1回15 mg	①1日1回10mg ②腎機能正常者と同じだが，適応について慎重に判断し，減量も考慮する 腎機能正常者に比し，AUCが1.5倍上昇し，$t_{1/2}$が1.1倍延長する		①適用について慎重に判断して1日1回10mg ②禁忌 (使用経験がない) 腎機能正常者に比し，AUCが1.6倍上昇し，$t_{1/2}$が1.1倍延長する	①②禁忌 (使用経験がない)	
抗血栓性末梢循環改善剤	バトロキソビン	111	デフィブラーゼ点滴静注液	×	禁		10バトロキソビン単位（BU）を輸液で用時希釈し，隔日に1時間以上かけて点滴静注（6週間以内）。初回20 BU投与することもある。	薬物動態データがほとんどなく不明		禁忌		
脂溶性ビタミン剤	ビタミンA	112	チョコラA末・錠	×			補給目的:［末］1日2,000～4,000 ビタミンA単位を分3 治療目的:［末］1日3,000～100,000 ビタミンA単位を分3。［錠］1日10,000～100,000 ビタミンA単位を分3	末期腎不全患者は血中ビタミンA濃度が高いため投与しない				
	レチノールパルミチン酸エステル	113	チョコラ筋注	×			1日3,000～100,000 ビタミンA単位，筋注					
		114	チョコラA滴				補給目的: 1日2,000～4,000 ビタミンA単位 治療目的: 1日3,000～100,000 ビタミンA単位					
	エトレチナート	115	チガソンカプセル	×	禁		寛解導入量として，1日40～50 mg を分2～3，2～4週間，1日最大量75 mg。寛解維持量として，1日10～30 mg を分1～3	禁忌 (腎障害のある患者では本剤の作用が増強するおそれがある)				
血漿増量・体外循環灌流液	ヒドロキシエチルデンプン70000	116	サリンヘス輸液/ヘスパンダー輸液	×	禁	○	1回100～1,000 mL，静注，体外循環における血液希釈液としては10～20 mL/kg	1日500 mL以下に (Renal Pharmacotherapy, 2013)		禁忌 (乏尿等を伴う腎障害または脱水状態のある患者では腎不全を起こすおそれがある)		
	ヒドロキシエチルデンプン130000	117	ボルベン輸液	×	禁	○	持続的に静注，最大1日50 mL/kg	1日500 mL以下に (Renal Pharmacotherapy, 2013)			禁忌 (透析患者では排泄が遅延する)	
補正用電解質液	塩化カリウム	118	KCL補正液	○			カリウムイオン濃度40 mEq/L以下に希釈し，投与速度はカリウムイオンとして20 mEq/hr を超えないこと。電解質補液の補正には，体内の水分，電解質の不足に応じて電解質補液に添加して点滴静注するが，腹膜透析液に添加して腹腔内投与も可	一般的に高カリウム血症になりやすいため，慎重投与。血中カリウム濃度をみながら投与する。高カリウム血症を起こすことがあるので，投与速度はカリウムイオンとして20 mEq/hr を超えないこと。電解質補液の補正には，体内の水分，電解質の不足に応じて電解質補液に添加して点滴静注するが，腹膜透析液に添加して腹腔内投与も可				
カリウム補給薬	塩化カリウム	119	ケーサプライ錠	○	禁		1回2錠 を1日2回，食後	慎重投与。低カリウム血症があれば投与。消化管通過障害のある患者では塩化カリウムの局所的な粘膜刺激作用により潰瘍，狭窄，穿孔をきたすことがあるため禁忌			乏尿・無尿，高度の腎機能障害には禁忌。ただしCAPDなどで低カリウム血症があれば投与可能。消化管通過障害のある患者では塩化カリウムの局所的な粘膜刺激作用により潰瘍，狭窄，穿孔をきたすことがあるため禁忌	
第四世代セフェム系	セフェピム塩酸塩（CFPM）	120	注射用マキシピーム	○			①一般感染症: 1日1 ～ 2g 分2，静注又は点滴静注。難治性又は重症感染症には1日量4 g まで増量可。 ②発熱性好中球減少症: 1日4g を分2，静注又は点滴静注	1日1 g を分2			1日1回0.5 g，HD患者のHD日はHD後に投与	
カルバペネム系	イミペネム水和物・シラスタチンナトリウム（IPM/CS）配合	121	チエナム点滴静注用・筋注用	○		○	［静注用］1日0.5 (IPM: 0.5 g, CS: 0.5 g)～ 1.0 g (IPM: 1 g, CS: 1 g) を分2 ～ 3，30分以上かけて点滴静注。重症例等には1日2 g (IPM: 2 g, CS: 2 g) まで増量可 ［筋注用］1日0.5 (IPM: 0.5 g, CS: 0.5 g)～ 1.0 g (IPM: 1 g, CS: 1 g) を分2，筋注	1日0.25 (IPM: 0.25 g, CS: 0.25 g)～0.5 g (IPM: 0.5 g, CS: 0.5 g) を分2			1日1回0.25 g (IPM: 0.25 g, CS: 0.25 g) IPMの腎外CLが58%低下するという報告あり (Expert Opin Drug Metab Toxicol 4: 1065 - 1074, 2008)	痙攣などの副作用が起こりやすいため他剤を選択する IPMの腎外CLが58%低下するという報告あり (Expert Opin Drug Metab Toxicol 4: 1065 - 1074, 2008)

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)							HD（血液透析） PD（腹膜透析）
	一般名	番号	商品名				>80 70 60	50		40		30	20	10>	
							正常または軽度低下	軽度～中等度低		中等度～高度低		高度低下		末期腎不全	
カルバペネム系	パニペネム・ベタミプロン（PAPM/BP）配合	122	カルベニン点滴用	○		○	1日1 g (PAPM: 1 g, BP: 1g) を分2, 30分以上かけて点滴静注。重症例等には1日2 g (PAPM: 2 g, BP: 2g) を分2 まで増量可。1回1 g (PAPM: 1 g, BP: 1g) の場合は60分以上かけて持続点滴	1日1 g (PAPM: 1 g, BP: 1g) を分2						1日1回0.5 g (PAPM: 0.5 g, BP: 0.5g) , HD患者のHD日はHD後に投与	
アミノグリコシド系	アミカシン硫酸塩（AMK）	123	アミカシン硫酸塩注	○		○	1 回7.5 ~ 20 mg/kg を24 hr毎, ただし1日20 mg/kg 24 hr毎の高用量は5日以内にとどめ, ピーク値を50 ~ 60 μg/mLにトラフ値を4 μg/mL 未満を目標とする（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回7.5 ~ 12 mg/kg を24 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回4 ~ 12 mg/kg を24 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回15 mg/kg を48 時間毎または4 mg/kg を24 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回7.5 ~ 12 mg/kg を48 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	4 ~ 10 mg/kg を48 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）		投与量は指定されていない（抗菌薬TDMガイドライン2016）	HD: 5 ~ 7.5 mg/kg を負荷投与維持量も同じ量を毎HD 後（抗菌薬TDMガイドライン2016）
	イセパマイシン硫酸塩（ISP）	124	エクサシン注射液	○		○	1回8 ~ 15 mg/kg を24 hr毎 (サンフォード感染症治療ガイド)	1回8 mg/kg を24 ~ 48 時間毎。エンピリック治療には他剤を選択すること。本剤を使用する場合にはTDMを実施し, 腎機能をモニターすること			1回4 ~ 8 mg/kg を48 ~ 72 時間毎。エンピリック治療には他剤を選択すること。本剤を使用する場合にはTDMを実施し, 腎機能をモニターすること		1回8 mg/kg を72 ~ 96 時間毎。エンピリック治療には他剤を選択し, 本剤を使用する場合にはTDMを実施し, 尿量をモニターすること		1回8 mg/kg を72 ~ 96 時間毎, HD患者はHD日にはHD後に投与。尿量のある患者ではエンピリック治療には他剤を選択し, 本剤を使用する場合にはTDMを実施すること
	ゲンタマイシン硫酸塩（GM）	125	ゲンタシン注	○		○	1回4 ~ 7 mg/kg を24 hr毎, ただし1回7 mg/kg を24 時間毎の高用量は5日以内にとどめる (抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回3.5 ~ 4 mg/kg を24 hr毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回2.5 ~ 4 mg/kg を24 hr毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回5 mg/kg を48 hr毎または2.5 mg/kg を24 hr毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回4 mg/kg を48 hr毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回3 mg/kg を48 hr毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）		投与量は指定されていない（抗菌薬TDMガイドライン2016）。	HD: 1回2 ~ 2.5 mg/kgを負荷投与し1 ~ 1.7 mg/kgを毎HD 後（抗菌薬TDMガイドライン2016）。 CAPD: 無尿では0.6 mg/kg, 尿量のある患者では0.75 mg/kg を1日1回静注, または無尿では8 mg/L, 尿量のある患者では10 mg/Lを1日1回バッグ内投与。エンピリック治療には他剤を選択し, 本剤を使用する場合にはTDMを実施し, 尿量をモニターすること。
	トブラマイシン（TOB）	126	トブラシン注	○		○	1回4 ~ 7 mg/kg を24 時間毎, ただし1回7 mg/kg を24 時間毎の高用量は5日以内にとどめる (抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回3.5 ~ 4 mg/kg を24 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回2.5 ~ 4 mg/kg を24 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回5 mg/kg を48 時間毎または2.5 mg/kg を24 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回4 mg/kg を48 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）	1回3 mg/kg を48 時間毎（抗菌薬TDMガイドライン2016）		投与量は指定されていない（抗菌薬TDMガイドライン2016）。	
抗MRSA薬	アルベカシン硫酸塩（ABK）	127	ハベカシン注射液	○		○	目標血中濃度を達成するためには1日1回5.5 ~ 6.0 mg/kg が必要である。しかしその安全性に関する成績は限られている。目標ピーク値は15 ~ 20 μg/mL, 腎機能障害の観点からトラフ値は1 μg/mL 未満とする（抗菌薬TDMガイドライン2016）	他の抗菌薬が使用できない場合は, GM/TOBで推奨されている投与設計を参考とする（抗菌薬TDMガイドライン2016）							
	ダプトマイシン（DAP）	128	キュビシン静注用	×		○	①敗血症, 感染性心内膜炎: 1日1回6 mg/kg を24 時間毎, 30分かけて点滴静注又は緩徐に静注 ②深在性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, びらん・潰瘍の二次感染: 1日1回4 mg/kg を24 時間毎, 30分かけて点滴静注又は緩徐に静注	腎機能正常者と同じ			AUCが2倍に上昇するため, 1 回4 ~ 6 mg/kg を48 時間毎, 点滴静注		AUCが3倍に上昇するため, 1 回4 ~ 6 mg/kg を48 時間毎, 点滴静注 (透析性は高くないと思われるが添付文書では透析患者のHD日にはHD後に投与)	

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)							HD（血液透析） PD（腹膜透析）
	一般名	番号	商品名				>80 / 70 / 60 / 50 / 40 / 30 / 20 / 10>								
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下	末期腎不全				
抗MRSA薬	テイコプラニン（TEIC）	129	注射用タゴシッド	×		○	1回6.7 mg/kg を2回で2日間, 3日目6.7 mg/kg を1回を負荷投与する。その後は6.7 mg/kgを24 時間毎とし, TDMの結果で再評価する。目標トラフ値は15 ～ 30 μg/mL。(抗菌薬TDMガイドライン2016)	1回6.7 mg/kg を2回で2日間, 3日目6.7 mg/kg を1回を負荷投与する。その後は3.3 mg/kgを24 時間毎とし, TDMの結果で再評価する（抗菌薬TDMガイドライン2016）。	1回6.7 mg/kg を1日2回で1日間, 2日目6.7 mg/kg を1日1 ～ 2回, 3日目1回6.7mg/kg を1日1回で負荷投与する。4日目は投与せず, その後は5日目以降5.0 mg/kg を48時間毎とし, TDMの結果で再評価する（抗菌薬TDMガイドライン2016）		1回6.7 mg/kg を1日2回で1日間, 2日目6.7 mg/kg を1日1回, 3日目6.7 mg/kg を1日1回で負荷投与する。4日目は投与せず, その後は3.3 mg/kg を48時間毎とし, TDMの結果で再評価する（抗菌薬TDMガイドライン2016）	HD: 6.7 mg/kg を1日2回で2日間, 3日目6.7 mg/kg を1日1回で負荷投与する。その後はHD後に3.3 mg/kgを投与し, TDMの結果で再評価する（抗菌薬TDMガイドライン2016） CAPD腹膜炎: 1回40 mg のバッグ内投与を1日2回を1週間投与, さらに1回40 mgのバッグ内投与を1日1回を1週間投与する（Perit Dial Int 10: 107 - 108, 1990）
	バンコマイシン塩酸塩（VCM）	130	塩酸バンコマイシン点滴静注用	△		○	1回15 ～ 30 mg/kg (実測体重) を腎機能に応じて初回負荷投与 (eGFR≧120 mL/min/17.3m^{2}で30 mg/kg, 90 ～ 120で25 mg/kg, 80 ～ 90で15 mg/kg) し, その後は12.5 ～ 20 mg/kg（≧120 mL/min/1.73m^{2}で20 mg/kg, 90 ～ 120で15 mg/kg, 80 ～ 90で12.5 mg/kg）を12 時間毎に投与する。ただし1日3 gを超える投与は慎重に行い1日4 gを上限とする。またeGFR60 ～ 80 mL/min/1.73m^{2}では負荷投与せずに20 mg/kgを1日1回投与毎を推奨する（抗菌薬TDMガイドライン2016）。	抗菌薬TDMガイドライン2016では「負荷投与せずに15mg/kgを1日1回投与を推奨する」となっているが, 十分な理由が記載されていない。	抗菌薬TDMガイドライン2016では「負荷投与せずに12.5mg/kgを1日1回投与を推奨する」となっているが, 十分な理由が記載されていない。	抗菌薬TDMガイドライン2016では「適応としない」となっているが十分な理由が記載されていない。		HD: 初回20 ～ 25 mg/kg を負荷投与し, 毎HD後に7.5 ～ 10 mg/kg投与。通常投与開始後2回目の透析前にTDMを実施する（抗菌薬TDMガイドライン2016） PD腹膜炎：15 ～ 30 mg/kg をCAPDでは5 ～ 7日毎にAPDでは3 ～ 5日毎に腹腔内投与し, TDMを実施。トラフ値15 μg/mL以上に保つ。ただし尿量が100 mL/日以上ある患者では25%増量して投与
サルファ剤	スルファメトキサゾール・トリメトプリム（ST）合剤	131	バクトラミン注	○		○	1日T換算15 ～ 20 mg/kg を分3, 1 ～ 2時間かけて点滴静注	腎機能正常者と同じ		通常の1/2量	一般感染症への使用は推奨されない ニューモシスチス肺炎の治療に使用する場合には, 一例として1日6A（T換算480mg）を分1, HD患者はHD日はHD後に投与 なお, 本投与法に関する情報は不足していることから, 今後の検討が望まれる		
		132	バクタ配合錠・配合顆粒 /バクトラミン配合錠・配合顆粒				①一般感染症: 1日［錠］4錠, ［顆粒］4 g（T換算320mg）を分 2 ②ニューモシスチス肺炎の治療及び発症抑制: 治療の場合は1日［錠］9 ～ 12錠, ［顆粒］9 ～ 12 g（T換算720 ～ 960 mg）を分3 ～ 4。発症抑制の場合は1日1回［錠］1 ～ 2錠, ［顆粒］1 ～ 2 g（T換算80 ～ 160 mg）を連日又は週3日	腎機能正常者と同じ		通常の1/2量	一般感染症への使用は推奨されない ニューモシスチス肺炎に使用する場合には, 一例として治療には1日［錠］6錠, ［顆粒］6 g（T換算480mg）を分 1。発症抑制の場合は1日1回［錠］1錠, ［顆粒］（T換算80mg）を週3回, HD患者はHD日はHD後に投与 なお, 本投与法に関する情報は不足していることから, 今後の検討が望まれる		
キノロン系	ピペミド酸水和物（PPA）	133	ドルコール錠	×		○	①膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎（急性症, 慢性症）: 1日500 ～ 2,000 mg を分3 ～ 4 ②感染性腸炎, 中耳炎, 副鼻腔炎: 1日1,500 ～ 2,000 mg を分3 ～ 4	1日250 ～ 1,500 mg			1日250 ～ 750 mg		尿中の未変化体の排泄量が55.7%と高いため, 腎外CLに変化がなければ約1/2に減量するのが妥当と思われる

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量										HD（血液透析） PD（腹膜透析）
							GFRまたはCCr(mL/min)										
							>80	70	60	50	40	30	20	10>			
	一般名	番号	商品名				正常または軽度低下			軽度～中等度低		中等度～高度低		高度低下		末期腎不全	
ニューキノロン系	オフロキサシン（OFLX）	134	タリビッド錠	△		○	1日300 ~ 600 mg を分2 ~ 3。ハンセン病の場合は1日400 ~ 600 mg を分2 ~ 3。腸チフスの場合は1回200mg を1日4回, 14日間投与				1回200 mg を1日1回					1回100 mg を1日1回, HD患者はHD日はHD後に投与	
	シタフロキサシン水和物（STFX）	135	グレースビット錠・細粒	×		○	1回50 mg を1日2回, 又は1回100 mg を1日1回。効果不十分の場合は1回100 mg を1日2回				1回50 mg を1日1回		1回50mg を2日に1回				1回50 mg 又は100 mg を週3回HD後に投与
	パズフロキサシンメシル酸塩（PZFX）	136	パシル点滴静注/ パズクロス点滴静注	○		○	1日600 ~ 1,000 mg を分2, 30分 ~ 1時間かけて点滴静注。敗血症, 肺炎球菌による肺炎, 重症・難治性の呼吸器感染症（肺炎・慢性呼吸器病変の二次感染に限る)の場合1日2,000 mg を分2, 1時間かけて点滴静注						1回500 mg を1日2回		1回500mgを1日1回			1 回300 ~ 500 mgを48 hr毎, HD患者ではHD日にはHD 後に投与
	プルリフロキサシン（PUFX）	137	スオード錠	×		○	1回200mg, を1日2回。1回最大量は300 mg。肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染には, 1回300 mg を1日2回			1 回200 mg を24 時間毎					1 回200 mg を48 時間毎		
	レボフロキサシン水和物（LVFX）	138	クラビット点滴静注	△		○	1回500mg を1日1回, 約60分間かけて点滴静注				初日500 mg を1回, 以後1回250 mg を1日1回				初日500 mg を1回, 3日目以降1回250 mg を2日に1回		
		139	クラビット錠・細粒				1回500 mg を1日1回										
	ロメフロキサシン（LFLX）	140	バレオンカプセル・錠	×		○	1回100 ~ 200mg を1日2 ~ 3回			1回100 ~ 200mg を12 ~ 24時間毎 AUCが2倍に上昇し$t_{1/2}$が1.5倍に延長する					1回100 ~ 200 mgを24時間毎 AUCが3.5倍に上昇し$t_{1/2}$が2.4倍に延長し, 腎外CLが63%低下する（Clin Pharmacol Ther 83: 898 - 903, 2008）		
ポリペプチド系	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	141	オルドレブ点滴静注用	×		○	1回1.25 ~ 2.5 mg/kg を1日2回, 30分以上かけて点滴静注	1回1.25 ~ 1.9 mg/kg を1日2回			1回1.25 mg/kg を1日2回, 又は1回2.5 mg/kg を1日1回		1回1.5 mg/kg を36 時間毎		投与量の設定がされていない		1回1.5 mg/kg を1日1回, HD患者ではHD後に投与（日化療会誌 63: 294 - 329, 2015)。ただしVdが大きいため透析での除去率は高くないと予測される
抗結核薬	エタンブトール塩酸塩（EB）	142	エサンブトール錠/エブトール錠	○			①肺結核及びその他の結核: 1日0.75 ~ 1 g を分1 ~ 2 ②MAC症を含む非結核性抗酸菌症: 1日0.5 ~ 0.75g を分1 1日15 mg/kg を分1, 最大1日量750 mg, 初期2か月は1日20 mg/kg を分1, 最大1日量1000 mg（結核診療ガイドライン・改訂第3版）			減量して連日投与（結核診療ガイドライン・改訂第3版）					1 回15 ~ 20 mg/kgを48 時間毎, HD患者のHD日はHD後に投与		
	カナマイシン硫酸塩（KM)	143	硫酸カナマイシン注射液	○		○	①肺結核及びその他の結核症: 1日2g を分2, 筋注, 週2日, 又は1日1gずつ週3日, 高齢者には1回0.5 ~ 0.75 g ②その他: 1日1 ~ 2 g を分1 ~ 2, 筋注 1日15 mg/kg を分1, 初期連2カ月間連続投与可, 連日投与時は最大1日量750 mg, 週3回投与時は最大1日量1,000 mg（結核診療ガイドライン・改訂第3版） 1 回15mg/kg を24 hr毎（サンフォード感染症治療ガイド）			使用を勧めない（結核診療ガイドライン・改訂第3版）							透析後に1回1g（結核診療ガイドライン・改訂第3版), 1 回3 mg/kg を72 時間毎, HD患者ではHD日にはHD 後に投与 (サンフォード感染症治療ガイド）
	サイクロセリン（CS）	144	サイクロセリンカプセル	×			1回250 mg を1日2回 1日10 mg/kg, 最大1日量500 mg（結核診療ガイドライン・改訂第3版）			1回250 mg を12 ~ 24 時間毎					1回250 mg を24 時間毎		

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)						HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 70 60 50 40 30 20 10>							
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下		末期腎不全		
抗結核薬	ストレプトマイシン硫酸塩(SM)	145	硫酸ストレプトマイシン注射用	○		○	①肺結核及びその他の結核症: 1日1g, 筋注, 週2～3日, 高齢者には1回0.5～0.75 g ②MAC症を含む非結核性抗酸菌症: 1日0.75～1 g, 筋注, 週2～3日 ③その他: 1日1～2 g を分1～2, 筋注 1日15 mg/kg を分1, 初期連2ヵ月間連続投与可, 連日投与時は最大1日量750 mg, 週3回投与時は最大1日量1,000 mg(結核診療ガイドライン・改訂第3版) 1 回12～15 mg/kg を24 時間毎(サンフォード感染症治療ガイド)	使用を勧めない(結核診療ガイドライン・改訂第3版)					透析後に1g (結核診療ガイドライン・改訂第3版), 1回3 mg/kg を72 hr毎, HD患者ではHD日にはHD後に投与(サンフォード感染症治療ガイド)
	ピラジナミド(PZA)	146	ピラマイド原末	○			1日1.5～2.0 g を分1～3 1日25 mg/kg を分1, 最大1日量1,500 mg (添付文書の用量では肝障害が起こりやすい) (結核診療ガイドライン・改訂第3版)	減量して連日投与(結核診療ガイドライン・改訂第3版)				1回25～30 mg/kg を週3回, HD患者のHD日はHD後に投与		
ポリエンマクロライド系抗真菌薬	アムホテリシンB (AMPH)	147	ファンギゾン注	×		○	添付文書参照	腎毒性があるため, 他剤を選択する						無尿の患者には腎機能正常者と同じ
フルオロピリミジン系抗真菌薬	フルシトシン (5-FC)	148	アンコチル錠	○			①真菌血症, 真菌性髄膜炎, 真菌性呼吸器感染症, 黒色真菌症: 1日100～200 mg/kg を分4 ②尿路真菌症, 消化管真菌症: 1日50～100 mg/kg を分4	①1回25～50 mg/kg を1日4回	①1回25～50 mg/kg を1日2回	①1回25～50 mg/kg を1日1回	①1回50 mg/kg を24時間以上の間隔で			①1回25～50 mg/kg を24時間以上の間隔でHD日はHD後に
アゾール系抗真菌薬	フルコナゾール (FLCZ)	149	ジフルカンカプセル・ドライシロップ	○		○	①カンジダ症: 1日1回50～100 mg ②クリプトコッカス症: 1日1回50～200 mg, 1日400 mg まで増量可 ③造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防: 1日1回400 mg ④カンジダ属に起因する膣炎・外陰膣炎: [錠のみ]1回150 mg	1 回50～200 mg を24 時間毎				1 回50～200 mg を週3回, HD患者では毎HD後		
		150	ジフルカン静注液	○		○	①カンジダ症: 1日1回50～100 mg ②クリプトコッカス症: 1日1回50～200 mg, 1日400 mg まで増量可 ③造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防: 1日1回400 mg いずれも静注	1 回50～200 mg を24時間毎				1 回50～200 mg を週3回, HD患者では毎HD後		
	ホスフルコナゾール(F－FLCZ)	151	プロジフ静注液	○			①カンジダ症: 1日1回50～100 mgを維持量として静注 ②クリプトコッカス症: 1日1回50～200 mgを維持量として静注。400 mgまで増量可 いずれも初日, 2日目は維持量の倍量を投与	通常用量の1/2に減量						HD: HD後に通常用量を投与する。CAPD: 通常用量の1/2に減量

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量										HD（血液透析） PD（腹膜透析）
	一般名	番号	商品名				GFRまたはCCr(mL/min)										
							>80	70	60	50	40	30	20	10>			
							正常または軽度低下		軽度～中等度低		中等度～高度低		高度低下		末期腎不全		
ヘルペスウイルス感染症治療薬	アシクロビル（ACV）	152	ゾビラックス点滴静注用	○		○	1回5 mg/kg を8時間毎に1時間以上かけて（尿細管での結晶析出による腎障害を避けるため），7日間点滴静注。脳炎・髄膜炎では，1回10 mg/kgまで増量可			腎機能正常者と同じ1回投与量を12時間毎。脱水を避け，ゆっくり投与（尿細管での結晶析出による腎障害を避けるため）			腎機能正常者と同じ1回投与量を24時間毎。脱水を避け，ゆっくり投与（尿細管での結晶析出による腎障害を避けるため）		腎機能正常者の1/2の1回投与量を24時間毎。脱水を避け，ゆっくり投与（尿細管での結晶析出による腎障害を避けるため）		3.5mg/kg を週3回，HD患者では毎HD後
		153	ゾビラックス錠・顆粒				①帯状疱疹: 1回800 mg を1日5回 ②造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症の発症抑制: 1回200 mg を1日5回，造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで投与 ③単純疱疹: 1回200 mg を1日5回						①1回800 mg を1日3回 ②③1回200 mg を1日5回。保存期では脱水予防，尿量確保する必要あり		①1回800 mg を1日2回 ②③1回200 mg を1日2回。保存期では脱水予防，尿量確保する必要あり		①1日1回体重に応じて400 ~ 800 mg。HD患者では毎HD後 ②③1回200 mg を1日1 ~ 2回
	バラシクロビル塩酸塩（VACV）	154	バルトレックス錠・顆粒	○		○	①帯状疱疹: 1回1,000 mg を1日3回 ②造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制: 1回500 mg を1日2回，造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで投与 ③単純疱疹: 1回500 mg を1日2回 ④水痘：1回1,000 mg を1日3回 ⑤性器ヘルペスの再発抑制: 1日1回500 mg。HIV感染症患者には1回500 mg を1日2回			①④1回1,000 mg を12時間毎 ②③1回500 mg を12時間毎 ⑤1回500 mg を24時間毎。HIV感染症患者では1回500 mg を12時間毎			①④1回1,000 mg を24時間毎 ②③1回500 mg を24時間毎 ⑤1回250 mg を24時間毎。HIV感染症患者では1回500 mg を24時間毎		①④1回500 mg を24時間毎 ②③1日1回500 mg 保存期では脱水予防，尿量確保する必要あり ⑤1回250 mg を24時間毎。HIV感染症患者では1回500 mg を24時間毎		①体重60kg以上で非高齢者では1回500 mg を週3回HD後，それ以外の症例には他剤を選択。 ③1回250 mg を週3回HD後
	ファムシクロビル（FCV）	155	ファムビル錠	△			①帯状疱疹: 1回500 mg を1日3回 ②単純疱疹: 1回250 mg を1日3回，再発性の単純疱疹の場合は，1回1,000 mg を1日2回			①1回500 mg を1日2回 ②1回250 mg を1日3回			①1回500 mg を1日1回 ②1回250 mg を1日2回		①②1回250 mg を1日に1回		①②HDでは週3回透析後に250 mg。CAPDでは250 mg を2日に1回
サイトメガロウイルス感染症治療薬	ガンシクロビル（DHPG）	156	デノシン注	○		○	初期治療: 1回5 mg/kg を12時間毎 維持治療: 1回5 mg/kg を24時間毎，又は1日1回6 mg/kg を週に5日 いずれも1時間以上かけて点滴静注		初期治療: 1回2.5 mg/kg を12時間毎 維持治療: 1回2.5 mg/kg を24時間毎		初期治療: 1回2.5 mg/kg を24時間毎 維持治療: 1回1.25 mg/kg を24時間毎		初期治療: 1回1.25 mg/kg を24時間毎 維持治療: 1回0.625 mg/kg を24時間毎		初期治療: 1回1.25 mg/kg を48時間毎，HD患者は週3回HD後 維持治療: 1回0.625 mg/kgを48時間毎，HD患者は週3回HD後		
	バルガンシクロビル塩酸塩（VGCV）	157	バリキサ錠・ドライシロップ	○		○	①サイトメガロウイルス感染症 初期治療: ［錠・DS］1回900 mg を1日2回，食後 維持治療: ［錠・DS］1回900 mg を1日1回，食後 ②臓器移植におけるサイトメガロウイルス感染症の発症抑制: ［錠・DS］1回900 mg を1日1回，食後			①初期治療: ［錠・DS］1回450 mg を1日2回 維持治療: ［錠・DS］1回450 mg を1日1回 ②［錠・DS］1回450 mg を1日1回		①初期治療: ［錠・DS］1回450 mg を1日に1回 維持治療: ［錠］1回450 mg を2日に1回。［DS］1回225 mg を1日1回 ②［錠］1回450 mg を2日に1回。［DS］1回225 mg を1日1回		①初期治療: ［錠］1回450 mg を2日に1回。［DS］1回225 mg を1日1回 維持治療: ［錠］1回450 mg を週に2回。［DS］1回125 mg を1日1回 ②［錠］1回450 mg を週に2回。［DS］1回125 mg を1日1回		［錠］1回450 mg 以下の設定になるため使用しない（DS, ガンシクロビル製剤の静注を考慮）。 ［DS］①初期治療: 1回200 mg を週3回HD後 維持治療: 1回100 mg を週3回HD後 ②1回100 mg を週3回HD後

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)						HD（血液透析） PD（腹膜透析）
	一般名	番号	商品名				>80 70	60	50	40	30	20	10>	
							正常または軽度低下	軽度～中等度低		中等度～高度低		高度低下	末期腎不全	
サイトメガロウイルス感染症治療薬	ホスカルネットナトリウム水和物	158	点滴静注用ホスカビル	○	禁	○	①後天性免疫不全症候群患者におけるサイトメガロウイルス網膜炎，造血幹細胞移植患者におけるサイトメガロウイルス感染症: 初期療法1回60 mg/kg を1時間以上かけて1日3回，又は90 mg/kg を2時間以上かけて1日2回，点滴静注。初期治療は2 ~ 3週間以上行う ②造血幹細胞移植患者におけるサイトメガロウイルス血症: 初期療法1回60 mg/kg を1時間以上かけて1日2回，点滴静注。初期治療は1 ~ 2週間以上行う いずれも，維持療法は1日1回90 ~ 120 mg/kg を2時間以上かけて点滴静注	腎機能，体重によって初期投与量，維持投与量が変化する。詳細は腎機能に応じた1回投与量調節ガイド参照 CCr 0.4 mL/min/kg 以下になった場合には休薬し，腎機能が回復するまで投与しない 禁忌 (CCr 0.4 mL/min/kg 以下の患者，腎障害を悪化させることがある)						
インフルエンザ治療薬	アマンタジン塩酸塩	159	シンメトレル錠・細粒	×	禁		①A型インフルエンザウイルス感染症 :1日100 mg を分1 ~ 2	1日1回100 mg (高齢者及び腎障害のある患者では投与量の上限を1日100 mg)		1回100 mg を2日に1回	1回100 mg を3日に1回		大部分が未変化体として尿中に排泄されるので，蓄積により，意識障害，精神症状，痙攣，ミオクローヌス等の副作用が発現することがある。またHDによって少量しか除去されないため透析を必要とするような重篤な腎障害のある患者には禁忌	
	オセルタミビルリン酸塩	160	タミフルカプセル・ドライシロップ	○		○	治療: 1回75 mg を1日2回, 5日間 予防: 1回75 mg を1日1回, 7 ~ 10日間			治療: 1回75 mg を1日1回, 5日間 予防: 1回75 mg を隔日, 4 ~ 5回			推奨用量は確立されていないが, 以下の用量が提案されている. 治療: 1回75 mg を単回 予防 (HD): 初回75 mg, 2回のHD後に75 mg (計2回) 予防 (PD, 末期腎不全): 初回75 mg, 7日目に75 mg追加 (計2回)	
	ペラミビル水和物	161	ラピアクタ点滴静注液	○			1回300 mg を15分以上かけて単回点滴静注。合併症等により重症化するおそれのある患者には, 1日1回600 mg を15分以上かけて単回点滴静注, 連日反復投与も可	通常: 1回100 mg 重症化のおそれがある患者: 1回200 mg 1日1回150mg（FDA）		通常: 1回50 mg 重症化のおそれがある患者: 1回100 mg 1日1回100 mg（FDA）			具体的には設定されておらず, 慎重に投与量を調節 初回100 mg, 以後は透析後2時間後に100 mg追加する（FDA）, CAPDでは初回100 mg, 以後は1日毎に100 mg 追加する	
抗HIV薬（ヌクレオシド系逆転写酵素阻害薬（NRTI））	エムトリシタビン（FTC）	162	エムトリバカプセル	×			1回200 mg を1日1回	1回200 mg を2日に1回		1回200 mg を3日に1回	1回200 mg を4日に1回		1回200 mg を4日に1回, HD患者はHD日はHD後に投与	
	テノホビル ジソプロキシルフマル酸塩（TDF）	163	ビリアード錠	○		○	1回300 mg を1日1回	1回300 mg を2日に1回		1回300 mg を1週間に2回			1回300 mg を1週間に1回投与，HD患者ではHD後，又は累積12時間のHD終了後に1回300 mg	
	ラミブジン（3TC）	164	エピビル錠	×			1日300 mg を分1 ~ 2	1日150 mg を1日1回		初回150 mg, その後1回100 mg を1日1回	初回150 mg, その後50 mg を1日1回		初回50 mg, その後25 mg を1日1回	
	エムトリシタビン（FTC）・テノホビル ジソプロキシルフマル酸塩（TDF）配合	165	ツルバダ配合錠	配合剤		○	1日1回1錠	1回1錠を2日に1回		本剤は投与せず, エムトリシタビン製剤およびテノホビル製剤により, 個別に用法・用量の調節を行う				
	エムトリシタビン（FTC）・テノホビルアラフェナミドフマル酸塩（TAF）配合	166	デシコビ配合錠LT・HT	配合剤		○	リトナビル又はコビシスタットと併用する場合は，［LT］1日1回1錠。併用しない場合は，［HT］1日1回1錠	本剤は投与せず, エムトリシタビン製剤およびテノホビル製剤により, 個別に用法・用量の調節を行う						
	ジドブジン（AZT）・ラミブジン（3TC）配合	167	コンビビル配合錠	配合剤		○	1回1錠を1日2回	本剤は投与せず, ジドブジン製剤およびラミブジン製剤により, 個別に用法・用量の調節を行う						

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)			HD（血液透析） PD（腹膜透析）
	一般名	番号	商品名				正常または軽度低下 >80 70	軽度～中等度低 60 50	中等度～高度低 40	高度低下 30 20	末期腎不全 10>	
抗HIV薬（ヌクレオシド系逆転写酵素阻害薬（NRTI））	ラミブジン（3TC）・アバカビル硫酸塩（ABC）配合	168	エプジコム配合錠	配合剤		○	1回1錠を1日1回	本剤は投与せず，ラミブジン製剤およびアバカビル製剤により，個別に用法・用量の調節を行う			
抗HIV薬（NRTI・NNRTI配合）	リルピビリン塩酸塩（RPV）/エムトリシタビン（FTC）/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩（TAF）	169	オデフシィ配合錠	配合剤			1回1錠を1日1回食事中または食直後	本剤は投与せず，リルピビリン製剤，エムトリシタビン製剤およびテノホビル製剤により，個別に用法・用量の調節を行う			
抗HIV薬（PI・NRTI配合）	ダルナビル エタノール付加物 (DRV)・コビシスタット (COBI)・エムトリシタビン (FTC)・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩 (TAF) 配合	170	シムツーザ配合錠	配合剤		○	1日1回1錠，食事中または食直後	本剤は投与せず，ダルナビル エタノール付加物・コビシスタット配合製剤，エムトリシタビン製剤およびテノホビル製剤により，個別に用法・用量の調節を行う。ただし，ダルナビル エタノール付加物・コビシスタット配合製剤は，コルヒチンを投与中の患者は禁忌			
抗HIV薬（INSTI・NRTI配合）	エルビテグラビル（EVG）・コビシスタット（COBI）・エムトリシタビン（FTC）・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩（TAF）配合	171	ゲンボイヤ配合錠	配合剤		○	1日1回1錠，食後。 本剤投与前にクレアチニンクリアランス，尿糖及び尿蛋白の検査を実施すること。また，本剤投与後も定期的な検査等により患者の状態を注意深く観察し，腎機能障害のリスクを有する患者には血清リンの検査も実施すること。腎毒性を有する薬剤との併用は避けることが望ましい。	重度の腎機能障害のある患者ではエムトリシタビンの血中濃度が上昇（腎機能正常者に比しAUCが200%上昇する）し，テノホビルは腎機能正常者に比しAUCが474%上昇する。30mL/min未満に低下した場合は，投与の中止を考慮する。 エムトリシタビン，テノホビルは，各製剤により個別に用法・用量の調整が必要であるが，エルビテグラビル製剤，コビシスタット製剤は存在しないため他剤との併用を考慮する。			
	エルビテグラビル（EVG）・コビシスタット（COBI）・エムトリシタビン（FTC）・テノホビルジソプロキシルフマル酸塩（TDF）配合	172	スタリビルド配合錠	配合剤		○	1日1回1錠，食事中または食直後	中等度及び重度の腎機能障害のある患者では，エムトリシタビン及びテノホビルの血中濃度が上昇するため，慎重投与CCr 70 mL/min以上の例に適用し，50 mL/min 未満に低下すると中止 エムトリシタビン，テノホビルは，各製剤により個別に用法・用量の調整が必要であるが，エルビテグラビル製剤，コビシスタット製剤は存在しないため他剤との併用を考慮する。			
	ドルテグラビルナトリウム（DTG）・ラミブジン（3TC）配合	173	ドウベイト配合錠	配合剤			1日1回1錠	本剤は投与せず，ドルテグラビルナトリウム製剤およびラミブジン製剤により，個別に用法・用量の調節を行う			
	ドルテグラビルナトリウム（DTG）・アバカビル硫酸塩（ABC）・ラミブジン（3TC）配合	174	トリーメク配合錠	配合剤		○	1日1回1錠	本剤は投与せず，ドルテグラビルナトリウム製剤，アバカビル硫酸塩製剤およびラミブジン製剤により，個別に用法・用量の調節を行う			
	ビクテグラビルナトリウム (BIC)・エムトリシタビン (FTC)・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩 (TAF) 配合	175	ビクタルビ配合錠	配合剤		○	1日1回1錠	重度の腎機能障害のある患者ではエムトリシタビンの血中濃度が上昇する。CCr 30 mL/min未満に低下した場合は，投与の中止を考慮する エムトリシタビン，テノホビルは，各製剤により個別に用法・用量の調整が必要であるが，ビクテグラビルナトリウム製剤は存在しないため他剤との併用を考慮する。			
B型肝炎治療薬	アデホビルピボキシル	176	ヘプセラ錠	○			1日1回10 mg	1回10 mg を2日に1回	1回10 mg を3日に1回		1回10 mg を週1回，HD患者ではHD後
	エンテカビル水和物	177	バラクルード錠	×			1日1回0.5 mg (ラミブジン不応患者には1 mg)，空腹時 (食後2時間以降かつ次の食事の2時間以上前)	1回0.5 mg (ラミブジン不応患者には1mg) を2日に1回	1回0.5 mg (ラミブジン不応患者には1 mg) を3日に1回		1回0.5 mg (ラミブジン不応患者には1 mg) を7日に1回，HD患者ではHD後 末期腎不全ではAUCが8．4倍上昇する (Clin Pharmacol Ther 85: 305 - 311, 2008)
	テノホビルアラフェナミドフマル酸塩	178	ベムリディ錠25mg	○		○	1日1回25 mg	慎重投与	慎重投与 (親化合物の AUC_{inf} が1.9倍に，テノフォビルの AUC_{inf} が5.7倍になる)	投与開始時に，CCrが15 mL/min 以上であることを確認すること。また，本剤投与後，CCrが15 mL/min未満に低下した場合は，投与の中止を考慮する	

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)								HD（血液透析） PD（腹膜透析）
	一般名	番号	商品名				>80	70	60	50	40	30	20	10>		
							正常または軽度低下			軽度～中等度低		中等度～高度低	高度低下	末期腎不全		
B型肝炎治療薬	テノホビルジソプロキシルフマル酸塩	179	テノゼット錠	○		○	1日1回300 mg				1回300 mg を2日に1回		1回300 mg を3～4日に1回		未検討だが，1回300 mg を7日に1回	1回300 mg を7日に1回又は累積約12時間の透析終了後に300 mg を投与
	ラミブジン	180	ゼフィックス錠	×			1日1回100 mg				初回100mg，その後50 mg を1日1回		初回100 mg，その後25 mg を1日1回	初回35 mg，その後15 mg を1日1回	初回35 mg，その後10 mg を1日1回	
C型肝炎治療薬（RNAポリメラーゼ阻害薬）	リバビリン	181	レベトールカプセル/コペガス錠	×	禁		添付文書参照				禁忌 (本剤の血中濃度が上昇し，重大な副作用が生じることがある，CCr < 30 mL/minではAUCが21％上昇する)					禁忌 HD患者に投与する場合には200mgを1日1回投与（Renal Pharmacotherapy, 2013）
C型肝炎治療薬（NS5Bポリメラーゼ阻害薬）	ソホスブビル	182	ソバルディ錠	×	禁		①セログループ2 (ジェノタイプ2) の場合: 1日1回400 mg を12週間投与，リバビリンと併用 ②セログループ1 (ジェノタイプ1) 又はセログループ2 (ジェノタイプ2) のいずれにも該当しない場合: 1日1回400 mg を24週間投与，リバビリンと併用				併用されるリバビリンはCCr < 50 mL/minで禁忌のため使えない 健康成人と比較して，ソホスブビルのAUCは2.1倍に，活性代謝物GS-331007のAUCは1.9倍に上昇する		禁忌 (ソホスブビル及びその代謝物の血中濃度が上昇する) 健康成人と比較して，ソホスブビルのAUCは2.7倍に，活性代謝物GS-331007のAUCは5.5倍に上昇する			
C型肝炎治療薬（配合薬）	ソホスブビル・レジパスビルアセトン付加物配合	183	ハーボニー配合錠	配合剤	禁		1日1回1錠を12週間				慎重投与 (ソホスブビルのAUCは107％上昇し，GS-331007のAUCは88％上昇する)		禁忌 (重度の腎機能障害 (eGFR < 30 mL/min/1.73m^2) 又は透析を必要とする腎不全の患者ではソホスブビル及びその代謝物の血中濃度が上昇する)			
	ソホスブビル・ベルパタスビル配合	184	エプクルーサ配合錠	配合剤	禁		①C型慢性肝炎・C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善: 1日1回1錠を24週間，リバビリンとの併用 ②C型非代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善: 1日1回1錠を12週間				ソホスブビルのAUCは107％上昇しGS-331007のAUCは88％上昇する。①の場合，併用されるリバビリンはCCr < 50mL/minで禁忌のため使えない		禁忌 (重度の腎機能障害 (eGFR < 30 mL/min/1.73m^2) 又は透析を必要とする腎不全の患者ではソホスブビル及びその代謝物の血中濃度が上昇する)			
抗マラリア薬	アトバコン・プログアニル塩酸塩配合	185	マラロン配合錠	配合剤	禁		治療: 1日1回4錠を3日間，食後 予防: 1日1回1錠を，マラリア流行地域到着24～48時間前より開始し，流行地域滞在中及び流行地域を離れた後7日間，毎食後			腎機能正常者と同じ (Renal Pharmacotherapy, 2013)			重度の腎障害のある患者に治療の目的で投与する場合，本剤の配合成分であるプログアニルの排泄が遅延し，血中濃度が上昇することで副作用が発現する危険性が高いため，他剤の投与を考慮するなど投与の可否を慎重に判断し，治療による有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。予防目的には禁忌。			
代謝拮抗薬	クロファラビン	186	エボルトラ点滴静注	○			1日1回52 mg/m^2，2時間以上かけて点滴静注。5日間連日投与し，少なくとも9日間休薬			腎機能正常者に比しAUCが2倍になると推定されているため，1/2に減量が妥当かもしれない			投与成績がないため，不明だが，大幅な減量が必要と思われる			
	テガフール/ギメラシル/オテラシルカリウム	187	ティーエスワン配合カプセル・顆粒・OD錠	○	禁		体表面積に合せて1回40, 50, 60 mgを初回基準量とし，1日2回，28日間連日投与し，その後14日間休薬 (詳細は添付文書参照)	初回基準量より，必要に応じて1段階減量 減量方法: 40 mg/回 → 休薬，50 mg/回 → 40 mg/回 → 休薬，60 mg/回 → 50 mg/回 → 40 mg/回 → 休薬または腎機能に応じて適宜減量を考慮 (Cancer Chemother Pharmacol 70: 783 - 789, 2012)		初回基準量より，原則として1段階減量		初回基準量より，原則として2段階減量	禁忌 (重篤な腎機能障害のある患者では，フルオロウラシルの異化代謝酵素阻害剤ギメラシルの腎排泄が著しく低下し，血中フルオロウラシル濃度が上昇し，骨髄抑制等の副作用が強く現れるおそれがある)			

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)							HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名					>80	70	60	50	40	30	20	10>
								正常または軽度低下		軽度～中等度低		中等度～高度低		高度低下	末期腎不全
代謝拮抗薬	フルダラビンリン酸エステル	188	フルダラ静注用	×	禁		①慢性リンパ性白血病, 低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫及びマントル細胞リンパ腫: 1日20 mg/m^2 を30分かけて点滴静注。5日間連日投与し23日間休薬 ②同種造血幹細胞移植の前治療, 腫瘍特異的T細胞輸注療法の前処置: 添付文書参照	①腎機能の低下に応じて次のような目安により投与量を減量し, 安全性を確認しながら慎重に投与する。 CCr 70 mL/min: 1日18 mg/m^2, CCr 50 mL/min: 1日14 mg/m^2, CCr 30 mL/min: 1日12 mg/m^2			禁忌 (腎から排泄されるので, 排泄遅延により副作用が強く現れるおそれがある)	
		189	フルダラ錠				1日1回40 mg/m^2 を5日間連日投与し23日間休薬	腎機能・体表面積により至適用量を決定する(添付文書参照)						禁忌 (腎から排泄されるので, 排泄遅延により副作用が強く現れるおそれがある)	
	ペメトレキセドナトリウム水和物	190	アリムタ注射用	不明		○	1日1回500mg/m^2 を10分間かけて点滴静注, 少なくとも20日間休薬			腎機能正常者と同じ (Up to Date)		重度の腎機能障害患者で, 本剤に起因したと考えられる死亡が報告されているので, 重度の腎機能障害患者には本剤を投与しないことが望ましい(腎機能障害患者に投与した十分な情報がない(Up to Date))。			
	メトトレキサート	191	メソトレキセート注射用・点滴静注液	○	禁	○	添付文書参照			50%に減量				禁忌 (排泄遅延により副作用が強く現れるおそれがある)	
		192	メソトレキセート錠				添付文書参照								
抗腫瘍性抗生物質	ブレオマイシン塩酸塩	193	ブレオ注射用	○	禁	○	静注・皮下注・筋注:1回15 ~ 30 mg 動注:1回5 ~ 15 mg いずれも1週2回を原則として症状に応じて1日1回ないし週1回に適宜増減			50 ~ 75%に減量			禁忌 (重篤な腎障害のある患者では, 排泄機能が低下し, 間質性肺炎・肺線維症等の重篤な肺症状を起こすことがある)		
	ペプロマイシン硫酸塩	194	ペプレオ注射用	不明	禁		1回5 ~ 10 mg を週2 ~ 3回, 静注, 筋注, 動注。症状に応じて1日1回連日から週1回まで適宜増減			慎重投与 (副作用が強く現れるおそれがある)			禁忌 (重篤な腎機能障害のある患者では, 排泄機能が低下し, 重篤な肺症状を起こしやすい)		
白金製剤	カルボプラチン	195	パラプラチン注射液	不明		○	添付文書参照			カルバートの式: AUC目標値×(GFR+25)(mg)によって算出し, 単独投与の場合, 初回はAUC 7 mg/mL・minを, 繰り返し投与のときはAUC 4 ~ 5 mg/mL・min を目標に投与する。透析患者のGFRは5 ~ 10を代入する。ただし本法の血清Cr値はJaffe法を用いているため, CG式を用いるとCCrよりもGFRに近似する。酵素法で測定される日本ではCG式を用いるとCCrが高めに推算されるため過量投与になりやすく, 血清Cr値に0.2を加える方法(Clin Cancer Res 6: 4733 - 4738, 2000)や体表面積補正を外したeGFRを用いることが推奨される					
	シスプラチン	196	ランダ注	○	禁	○	添付文書参照			75%に減量 (Cancer Treat Rev 21: 33 - 64, 1995)	50%に減量 (Cancer Treat Rev 21: 33 - 64, 1995)	禁忌 必要な場合には50%に減量して投与			禁忌 必要な場合にはHD患者は透析後に50%をCAPD患者は50%に減量して投与
免疫抑制薬	ミゾリビン	197	ブレディニン錠・OD錠	○		○	腎移植における拒否反応の抑制: 1日1 ~ 3 mg/kg を分1 ~ 3 (高用量1日6 ~ 10 mg/kg を分2 ~ 3: 保険適応外) ネフローゼ症候群, ループス腎炎, 関節リウマチ: 1回50 mg を1日3回			1/2 ~ 1/4量				1/4 ~ 1/10量	
インターフェロン製剤	インターフェロンα	198	スミフェロン注・注DS	×		○	添付文書参照			1日1回300万IUまで				1日1回300万IU を週3回まで	
	ペグインターフェロンα-2b	199	ペグイントロン皮下注	×		○	①C型慢性肝炎・C型代償性肝硬変: リバビリンと併用し, 1回1.5 μg/kg (C型代償性肝硬変では1回1.0 μg/kg) を週1回, 皮下注 ②悪性黒色腫: 8週目までは1回 6μg/kgを週1回, 9週目以降は1回3 μg/kg を週1回, 皮下注	CCrが50 mL/min以下の腎機能障害のある患者ではリバビリンが禁忌であり, リバビリンとの併用の場合は投与できない(使用するとすればCCr 30 ~ 50 mL/min:25%減量, CCr 10 ~ 29 mL/min:50%減量, 高度腎機能低下患者ではCLが健常者の約1/2に低下するため透析患者では1/2に減量)					
インターロイキン製剤	テセロイキン	200	イムネース注	×		○	1日70万IU を分1 ~ 2, 血管肉腫では最大140万IU, 腎癌では最大1日210万IU			減量必要だがデータなし				1日1回35 ~ 70万IU	

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)							HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 70 60 50 40 30 20 10>								
							正常または軽度低下	軽度～中等度低		中等度～高度低		高度低下		末期腎不全	
前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬	タダラフィル	201	ザルティア錠	×	禁		1日1回5 mg	1日1回2.5 mg から開始することを考慮する 軽度・中等度腎障害患者ではAUCが2倍程度上昇する				禁忌 (重篤な腎障害では本剤の血中濃度が上昇し, 使用経験が限られている)			
ペプタイド系抗利尿ホルモン用剤	デスモプレシン酢酸塩水和物	202	ミニリンメルトOD錠		禁		①夜間頻尿: [25, 50 μg]1日1回50 μg を就寝前 ②夜尿症: [120, 240 μg]1日1回120 μg を就寝前より開始し,1日240 μg まで増量可。 ③中枢性尿崩症: [60, 120, 240 μg]1回60 ~ 120 μg を分1 ~ 3, 最大1回240 μg, 最大1日720 μg	禁忌 (血中半減期の延長, 血中濃度の増加が認められる)							
乾癬治療薬(活性型VD外用薬)	カルシポトリオール	203	ドボネックス軟膏	×		○	1日2回, 適量を患部に塗布。1週間に90 gを超えないこと	腎機能の低下によりカルシウムの排泄が減少することから, 血清カルシウム値が上昇から腎機能が悪化しやすいため腎機能低下症例への使用は推奨しない。使用する場合には定期的な血清カルシウム濃度, 腎機能をモニターしながら投与すること。							
	カルシポトリオール水和物・ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	204	ドボベット軟膏・ゲル	配合剤		○	1日1回, 適量を患部に塗布。1週間に90 gを超えないこと								
	タカルシトール水和物	205	ボンアルファ軟膏・クリーム・ローション・ハイ軟膏・ハイローション	×		○	[ボンアルファ]1日2回, [ボンアルファハイ]1日1回, 適量を患部に塗布, [ボンアルファハイ]外用製剤として1日最大10 g, 他のタカルシトール水和物外用剤と併用する場合は, 1日200 μgまで								
	マキサカルシトール	206	オキサロール軟膏/ローション	×		○	1日2回, 適量を患部に塗擦, 外用製剤として最大1日10g	通常用量を塗布してもマキサカルシトールのAUCは注射剤5 μg投与時のAUCの10倍以上高くなり, 高カルシム血症・腎機能悪化になりやすいため腎機能低下症例への使用は推奨しない。使用する場合には定期的な血清カルシウム濃度, 腎機能をモニターしながら投与すること(透析会誌45: 63 - 68, 2012)							
	マキサカルシトール・ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	207	マーデュオックス軟膏	配合剤		○	1日1回, 適量を患部に塗布, 外用製剤として最大1日10g								
レストレスレッグス症候群治療薬	ガバペンチンエナカルビル	208	レグナイト錠	○	禁		1日1回600 mg, 夕食後 [60≦CCr＜90 mL/min] 1日1回300 mg, 最大1日1回 600mg	1日1回300 mg 1回600 mg を2日に1回 (Renal Pharmacotherapy, 2013)				禁忌 (活性代謝物であるガバペンチンの排泄が遅延し, 血漿中濃度が上昇するおそれがある)			
禁煙補助薬	バレニクリン酒石酸塩	209	チャンピックス錠	×			1 ~ 3日目は0.5 mg を1日1回食後, 4 ~ 7日目は0.5 mg を1日2回朝夕食後, 8日目以降は1 mg を1日2回朝夕食後。投与期間は12週間	腎機能正常者と同じ				1日1回0.5 mg で開始し, 必要に応じ増量し, 最大1回0.5 mg を1日2回		1日1回0.5 mg	
アルコール依存症 治療薬	アカンプロサートカルシウム	210	レグテクト錠	○	禁		1回666 mg を1日3回, 食後	1回333 mg を1日3回 (Renal Pharmacotherapy, 2013)				禁忌 (高度の腎障害のある患者では排泄遅延により, 高い血中濃度が持続するおそれがある)			
イオン性高浸透圧性造影剤	アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン	211	ウログラフイン注	×	禁	○	添付文書参照	禁忌							
非イオン性造影剤	イオパミドール	212	イオパミロン注	○	禁	○	添付文書参照	原則禁忌 (重篤な腎障害(無尿等)のある患者, 本剤の主たる排泄臓器は腎臓であり, 腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする							
	イオプロミド	213	プロスコープ注/シリンジ	○	禁	○	添付文書参照								
	イオヘキソール	214	オムニパーク注	○	禁	○	添付文書参照								
	イオベルソール	215	オプチレイ注/シリンジ	○	禁	○	添付文書参照								
	イオメプロール	216	イオメロン注	○	禁	○	添付文書参照								

分類	薬剤名			透析性	禁忌	腎障害	常用量	GFRまたはCCr(mL/min)							HD(血液透析) PD(腹膜透析)
	一般名	番号	商品名				>80 / 70 / 60 / 50 / 40 / 30 / 20 / 10>								
							正常または軽度低下	軽度～中等度低	中等度～高度低	高度低下	末期腎不全				
非イオン性等浸透圧性造影剤	イオトロラン	217	イソビスト注	○	禁	○	①関節撮影: 1回1～10 mL を関節腔内に注入 ②脊髄撮影, CTにおける脳室, 脳槽, 脊髄造影: 1回6～10 mL	原則禁忌 (重篤な腎障害(無尿等)のある患者, 本剤の主たる排泄臓器は腎臓であり, 腎機能低下患者ではさらなる腎機能の悪化(AKI)のリスクが高い) 投与する場合には必要最小量にする							
	イオジキサノール	218	ビジパーク注	○	禁	○	①脳血管撮影: [270]4～15 mL ②四肢血管撮影: [270]8～80 mL, [320]12～70 mL ③逆行性尿路撮影: [270]20～200 mL ④内視鏡的逆行性膵胆管撮影: [270]3～40 mL								
MRI用造影剤	ガドジアミド水和物	219	オムニスキャン静注シリンジ	○	禁	○	0.2 mL/kg (腎臓を対象とする場合は0.1 mL/kg) を静注	禁忌 (重篤な腎障害のある患者では腎性全身性線維症(NSF)発症の危険性が高く, 腎機能低下患者では, 排泄遅延から急性腎障害等の症状が悪化するおそれがある)							
	ガドテリドール	220	プロハンス静注・シリンジ	○	禁	○	0.2 mL/kg (腎臓を対象とする場合は0.1 mL/kg) を静注, 転移性脳腫瘍が疑われる場合には0.2 mL/kg初回投与後, 30分以内に0.2 mL/kg を追加可								
	ガドテル酸メグルミン	221	マグネスコープ静注シリンジ	○	禁	○	0.2 mL/kg (腎臓を対象とする場合は0.1 mL/kg, 0.2 mL/kg まで増量可) を静注								
	ガドブトロール	222	ガドビスト静注・シリンジ	○	禁	○	0.1 mL/kg を静注								